芦屋市 人権についての市民意識調査 報 告 書

令和2年3月

芦屋市

目 次

第1章	፤ 調査の概要	. 1
1.	調査の目的	1
2.	調査方法	1
3.	回収状況	1
	 報告書の留意点・見方	
第 2 章		. 3
1.	回答者の属性	3
2.	人権全般に関することがらについて	4
3.	女性の人権について	. 41
4.	子どもの人権について	. 47
5.	- 高齢者の人権について	. 55
	外国人の人権について	
	性的少数者 (LGBT) の人権について	
	インターネットを悪用した人権侵害について	
	働く人の人権について	
	人権問題についての自由意見	
10.	八惟问恩についての日田忠元・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	107
笋っき	』 ■ 調査結果のまとめ	108
ъ ∩ Т	- 四世十二人 くく り に くく・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	100
咨判		112
	ョウス (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1)	

第1章 調査の概要

1. 調査の目的

人権についての市民の意識を把握し、「第4次芦屋市人権教育・人権啓発に関する総合推進指針」の策定のための基礎資料とすることを目的に、アンケート調査を実施しました。

2. 調查方法

•調查地域:芦屋市全域

・調査対象:満16歳以上の市民2,500人(外国人住民50人を含む)

・抽出方法:令和元年8月9日現在の住民基本台帳から無作為抽出

・調査方法:郵送配布・郵送回収(お礼状兼督促状1回配布)又はインターネット回答方式

(依頼に応じてルビ付き版, 英語版の調査票を配付)

・調査期間: 令和元年8月28日から令和元年9月20日まで

3. 回収状況

図表 1-3-1 回収状況

配布数	不到達数	有効回収数**	有効回収率
(A)	(B)	(C)	(C/ (A-B))
2, 500	7	983	39. 4%

※有効回答数のうち、インターネットによるもの 131 件、調査票によるもの 852 件 (インターネット回答率 13.3%)。

図表 1-3-2 過去の調査との回収状況の比較

	配布数	不到達数	有効回収数	有効回収率
平成 26 年度調査	2, 500	8	1, 218	48. 9%
平成 21 年度調査	2, 500	_	1, 227	49. 1%
平成 13 年度調査	2, 500	_	1, 245	49.8%

4. 報告書の留意点・見方

- ・図表中の(n)とは、集計対象者実数(あるいは該当対象者実数)をさしています。
- ・図表の数値(%)は、すべて小数点以下第2位を四捨五入して表示しています。そのため、 単数回答を含めた設問でも、比率の合計が100%にならない場合があります。
- ・複数回答を含めた設問では、比率の合計が100%を超えます。
- ・無記入及び回答の読み取りが著しく困難な場合のほか、回答を1つだけ求めている設問に対して2つ以上回答していた場合は「不明・無回答」として処理を行いました。
- ・集計結果の表記にあたり、今回行いました「芦屋市人権についての市民意識調査」は本調査 と表記しています。また、報告書の中で他調査と比較を行っており、それらの調査の詳細は 以下の通りです。

平成 26 年度調査・・・・ 芦屋市「人権についての市民意識調査報告書」平成 27 年 3 月 調査方法は、郵送による配布・回収形式

平成 21 年度調査・・・・ 芦屋市「人権についての市民意識調査報告書」平成 22 年 3 月 調査方法は、郵送による配布・回収形式

平成30年度県調査・・兵庫県「人権に関する県民意識調査結果報告書」平成31年3月調査方法は、郵送による配布・回収形式

平成 29 年度国調査 · 内閣府「人権擁護に関する世論調査」平成 29 年 10 月 調査方法は、調査員による個別面接聴取法。 よって回答に「不明・無回答」はありません。

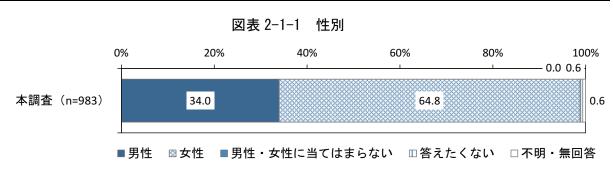
- ・回答割合を比較する場合、5.0ポイント以上の差がみられたものについて記述しています。
- ・クロス集計による分析では、集計対象者実数が 10 未満の項目については、他の項目と回答 割合に大きな差がある選択肢であっても、本文中でふれていません。



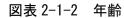
第2章 調査結果

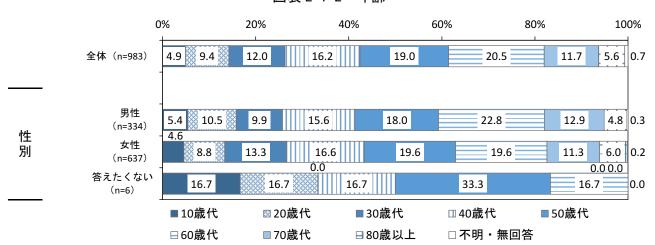
1. 回答者の属性





F2 あなたの年齢は。(令和元年9月1日現在)

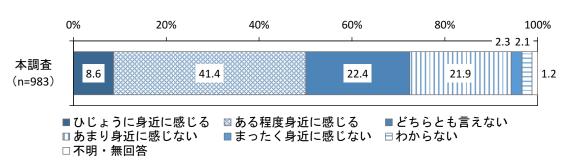




2. 人権全般に関することがらについて

問 1 あなたは、「人権」ということを、どの程度身近に感じていますか。 (Oは 1 つだけ)

図表 2-2-1 人権を身近に感じる程度



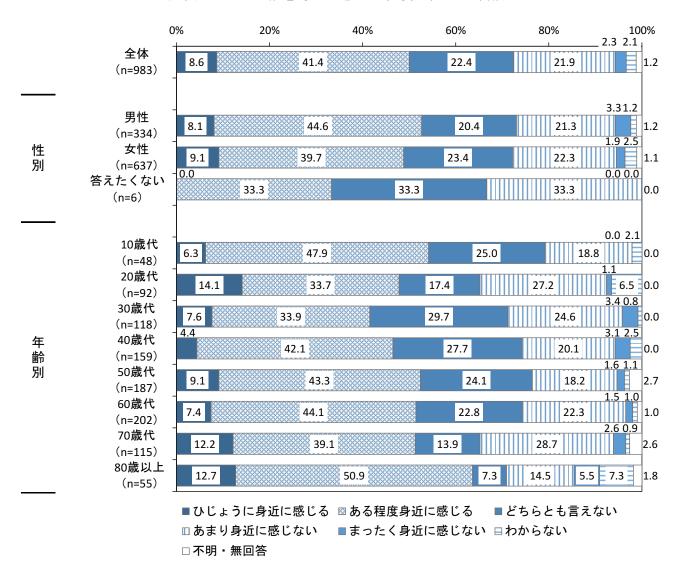
人権を身近に感じる程度については、「ある程度身近に感じる」が 41.4% で最も高く、次いで「どちらとも言えない」が 22.4%、「あまり身近に感じない」が 21.9% と続いています。

0% 20% 40% 60% 80% 100% 2.1 -本調査 50.0 22.4 24.2 1.2 (n=983)1.9 平成26年度調査 35.6 30.5 30.5 1.4 (n=1,218) 3.1 平成21年度調査 36.6 29.1 30.4 1.1 (n=1,227) 2.1 平成30年度県調査 41.3 1.3 29.6 25.8 (n=1.338) ■『身近に感じる』 図どちらとも言えない ■『身近に感じない』 □わからない □不明・無回答

図表 2-2-2 人権を身近に感じる程度 他調査結果

平成 26 年度調査と比較すると、『身近に感じる』(「ひじょうに身近に感じる」と「ある程度身近に感じる」の合計)では、本調査が 50.0%で、平成 26 年度調査 (35.6%) より 14.4 ポイント高くなっており、平成 30 年度県調査 (41.3%) と比較すると、8.7 ポイント高くなっています。

図表 2-2-3 人権を身近に感じる程度 性別・年齢別



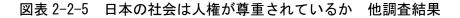
性別でみると、『身近に感じる』では、男性が52.7%、女性が48.8%となっています。

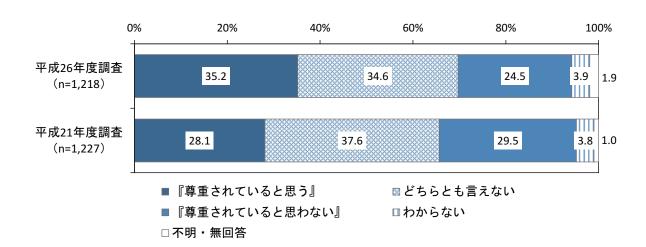
年齢別でみると、『身近に感じる』では、80歳以上が63.6%で最も高く、30歳代が41.5%で最も低くなっており、差が22.1ポイントとなっています。また、『身近に感じない』(「あまり身近に感じない」と「まったく身近に感じない」の合計)では、70歳代が31.3%で最も高くなっています。

0% 20% 40% 80% 100% 60% 本調査 29.4 4.7 0.4 7.8 43.5 14.1 (n=983)■そう思う 図どちらかといえばそう思う ■どちらとも言えない □どちらかといえばそう思わない ■そうは思わない □不明・無回答

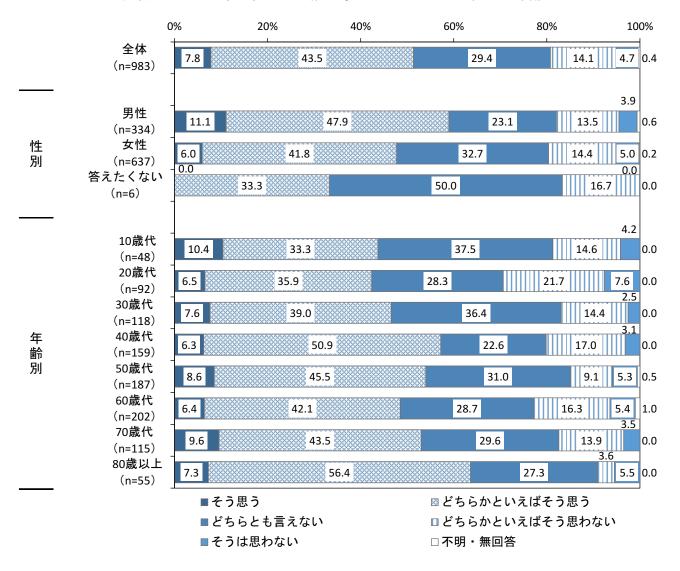
図表 2-2-4 日本の社会は人権が尊重されているか

日本の社会は人権が尊重されているかについては、「どちらかといえばそう思う」が 43.5%で 最も高く、次いで「どちらとも言えない」が29.4%、「どちらかといえばそう思わない」が14.1% と続いており、『そう思う』(「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計)は51.3%と なっています。





図表 2-2-6 日本の社会は人権が尊重されているか 性別・年齢別



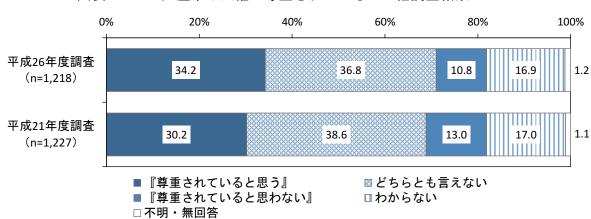
性別でみると,『そう思う』では,男性が59.0%で,女性(47.8%)より11.2ポイント高くなっています。

年齢別でみると、『そう思う』では、80歳以上が63.7%で最も高く、20歳代が42.4%で最も低くなっており、差が21.3ポイントとなっています。また、10歳代では「どちらとも言えない」の割合が最も高いのに対し、20歳代以上の年齢層では「どちらかといえばそう思う」の割合が最も高くなっています。

0% 20% 40% 80% 100% 60% 3.2 + 本調査 11.0 37.8 43.6 4.2 0.2 (n=983)■そう思う 図どちらかといえばそう思う ■どちらとも言えない □どちらかといえばそう思わない ■そうは思わない □不明・無回答

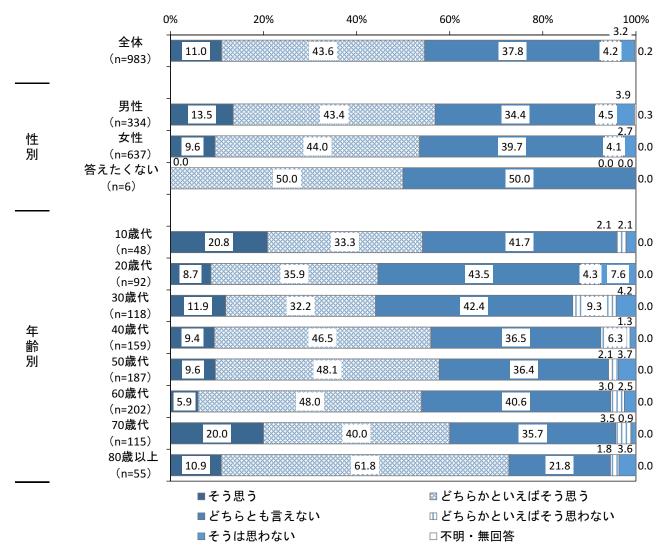
図表 2-2-7 芦屋市は人権が尊重されているか

芦屋市は人権が尊重されているかについては、「どちらかといえばそう思う」が43.6%で最も 高く,次いで「どちらとも言えない」が37.8%,「そう思う」が11.0%と続いており,『そう思 う』は54.6%となっています。



図表 2-2-8 芦屋市は人権が尊重されているか 他調査結果

図表 2-2-9 芦屋市は人権が尊重されているか 性別・年齢別



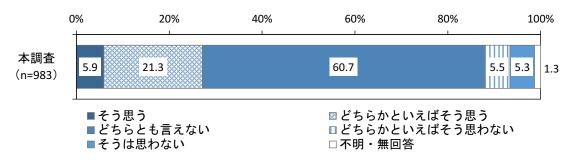
性別でみると、『そう思う』では、男性が56.9%、女性が53.6%となっています。

年齢別でみると、『そう思う』では、80歳以上が72.7%で最も高く、30歳代が44.1%で最も低くなっており、差が28.6ポイントとなっています。また、30歳代以下の年齢層では「どちらとも言えない」の割合が最も高いのに対し、40歳代以上の年齢層では「どちらかといえばそう思う」の割合が最も高くなっています。

問2③

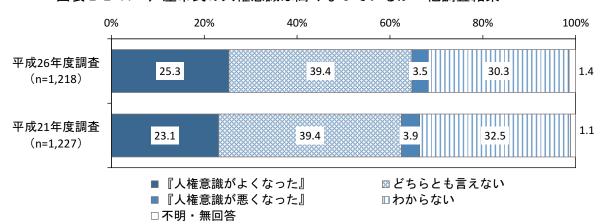
芦屋市民の人権意識(お互いの人権を尊重する意識)は5~6年前に比べて高くなっていると思いますか。(〇は 1 つだけ)

図表 2-2-10 芦屋市民の人権意識は高くなっているか



芦屋市民の人権意識は高くなっているかについては、「どちらとも言えない」が 60.7%で最も高く、次いで「どちらかといえばそう思う」が 21.3%、「そう思う」が 5.9%と続いており、『そう思う』は 27.2%となっています。

図表 2-2-11 芦屋市民の人権意識は高くなっているか 他調査結果



20% 40% 60% 80% 100% 全体 5.9 21.3 60.7 5.5 5.3 1.3 (n=983)男性 5.7 17.7 62.9 5.4 7.2 1.2 (n=334) 性 女性 5.7 5.8 23.2 59.8 1.3 別 (n=637) 0.0 0.0 0.0 答えたくない 33.3 66.7 0.0 (n=6)2.1 4.2 10歳代 66.7 10.4 0.0 16.7 (n=48)20歳代 6.5 15.2 63.0 6.5 7.6 1.1 (n=92) 4.2 30歳代 69.5 6.8 6.8 0.8 11.9 🎇 (n=118)1.9 年 40歳代 67.3 6.9 6.3 1.3 16.4 (n=159) 齢 50歳代 別 57.2 5.3 5.9 2.1 4.8 24.6 (n=187)60歳代 5.0 23.8 60.4 5.9 1.0 (n=202) 2.6 4.3 70歳代 8.7 53.9 29.6 0.9 (n=115) 0.0 80歳以上 14.5 34.5 🖁 45.5 5.5 0.0 (n=55) ⊠どちらかといえばそう思う ■そう思う □どちらかといえばそう思わない ■どちらとも言えない

図表 2-2-12 芦屋市民の人権意識は高くなっているか 性別・年齢別

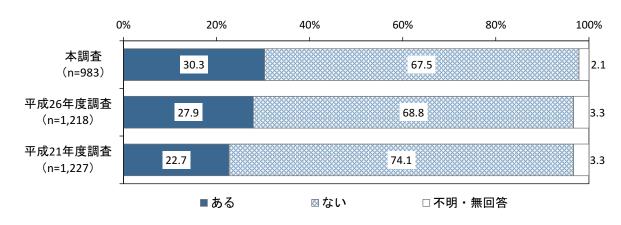
性別でみると、『そう思う』では、女性が 29.0%で、男性 (23.4%) よりも 5.6 ポイント高くなっています。

■そうは思わない

□不明・無回答

年齢別でみると、『そう思う』では、80歳以上が49.0%で最も高く、30歳代が16.1%で最も低くなっており、差が32.9ポイントとなっています。また、すべての年齢層で「どちらとも言えない」の割合が最も高くなっています。

図表 2-2-13 人権を侵害された経験



人権を侵害された経験については、「ない」が67.5%、「ある」が30.3%となっています。

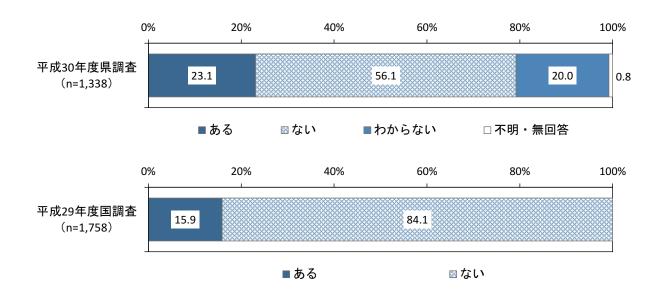
0% 20% 40% 60% 80% 100% 全体 30.3 67.5 2.1 (n=983) 男性 26.0 72.5 1.5 (n=334) 性 女性 32.2 65.5 2.4 別 (n=637) 答えたくない 50.0 50.0 0.0 (n=6)10歳代 16.7 83.3 🎇 0.0 (n=48)20歳代 30.4 66.3 3.3 (n=92) 30歳代 37.3 61.9 0.8 (n=118)年 40歳代 37.1 62.3 0.6 齢 (n=159) 別 50歳代 40.1 59.4 0.5 (n=187)60歳代 25.7 72.8 1.5 (n=202) 70歳代 18.3 76.5 5.2 (n=115) 80歳以上 16.4 74.5 9.1 (n=55) ■ある ▧ない □不明・無回答

図表 2-2-14 人権を侵害された経験 性別・年齢別

性別でみると,「ある」では,女性が 32.2%で,男性(26.0%)よりも 6.2 ポイント高くなっています。

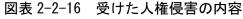
年齢別でみると、「ある」では、50 歳代が 40.1%で最も高く、80 歳以上が 16.4%で最も低くなっており、差が 23.7 ポイントとなっています。また、30 歳代から 50 歳代の年齢層で「ある」の割合が全体(30.3%)よりも 5.0 ポイント以上高くなっています。

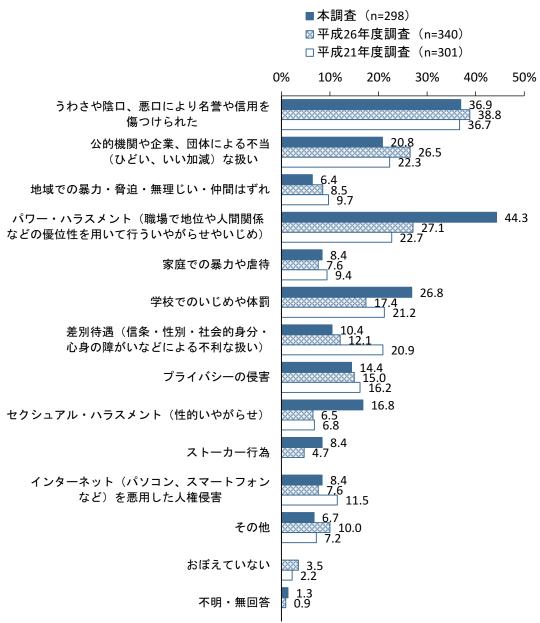
図表 2-2-15 人権を侵害された経験 他調査結果



平成 30 年度県調査では、「ない」が 56.1%で最も高く、次いで「ある」が 23.1%、「わからない」が 20.0%となっています。

平成 29 年度国調査では、「ない」が 84.1%、「ある」が 15.9%となっており、「ある」では、本調査 (30.3%) が 14.4 ポイント高くなっています。





受けた人権侵害の内容については、「パワー・ハラスメント(職場で地位や人間関係などの優位性を用いて行ういやがらせやいじめ)」が44.3%で最も高く、次いで「うわさや陰口、悪口により名誉や信用を傷つけられた」が36.9%、「学校でのいじめや体罰」が26.8%と続いています。平成26年度調査と比較すると、「パワー・ハラスメント(職場で地位や人間関係などの優位性を用いて行ういやがらせやいじめ)」(44.3%)では、平成26年度調査(27.1%)より17.2ポイント高く、差が最も大きい項目となっており、次いで「セクシュアル・ハラスメント(性的いやがらせ)」(16.8%)が平成26年度調査(6.5%)より10.3ポイント、「学校でのいじめや体罰」(26.8%)が平成26年度調査(17.4%)より9.4ポイント高くなっています。

図表 2-2-17 受けた人権侵害の内容 性別・年齢別

	全体	n 入	を傷つけられた のわさや陰口、悪口により名誉や信用 36.9	(ひどい、いい加減)な扱い 公的機関や企業、団体による不当 20.8	仲間はずれ 一句はでの暴力・脅迫・無理じい・ ほんしゅん ほんしゅん ほんしゅん ほんしゅん しょくしん はまい しょくしん しょせん しょくしん しょしん しょ	やがらせやいじめ) 人間関係などの優位性を用いて行うい 44.3	家庭での暴力や虐待 8.4	学校でのいじめや体罰 26.8	心身の障がいなどによる不利な扱い) 差別待遇(信条・性別・社会的身分・ 0.4	プライバシー の侵害	(性的いやがらせ)セクシュアル・ハラスメント	位:%) ストーカー 行為 8.4
		87	36. 8			44. 3						
性	男性 女性	205	36. 8	26. 4	9. 2		5. 7	24. 1 28. 3	9. 2	10.3		2. 3
別		3	33. 3	18. 5 0. 0	4. 9 0. 0	44. 4 33. 3	8. 8 66. 7	0.0	10. 7 33. 3	16. 6 0. 0		11. 2 0. 0
	答えたくない 10歳代	8	50. 0	25. 0	0.0		0.0	25. 0	33. 3 12. 5	0.0	0.0	0.0
	20歳代	28	50. 0 57. 1	7. 1	3. 6	25. 0	7. 1	42. 9	17. 9	14. 3		14. 3
	30歳代	44	40. 9	18. 2	13. 6	47. 7	13. 6	47. 7	11. 4	11. 4	18. 2	13. 6
年	40歳代	59	28. 8	20. 3	8. 5		11. 9	33. 9	8. 5			11. 9
年齢別	50歳代	75	33. 3	16. 0	1. 3		6. 7	22. 7	12. 0	17. 3	17. 3	8. 0
נימ	60歳代	52	32. 7	23. 1	5. 8	59. 6	5. 8	7. 7	3. 8	15. 4	13. 5	3. 8
	70歳代	21	42. 9	38. 1	9. 5	19. 0	4. 8	14. 3	19. 0	14. 3	9. 5	0.0
	80歳以上	9	33. 3	55. 6	0.0	0. 0		0.0	0. 0	0.0		0.0
		n (人)	フォンなど)を悪用したインター ネット (パソコ	その他	不明・無回答							

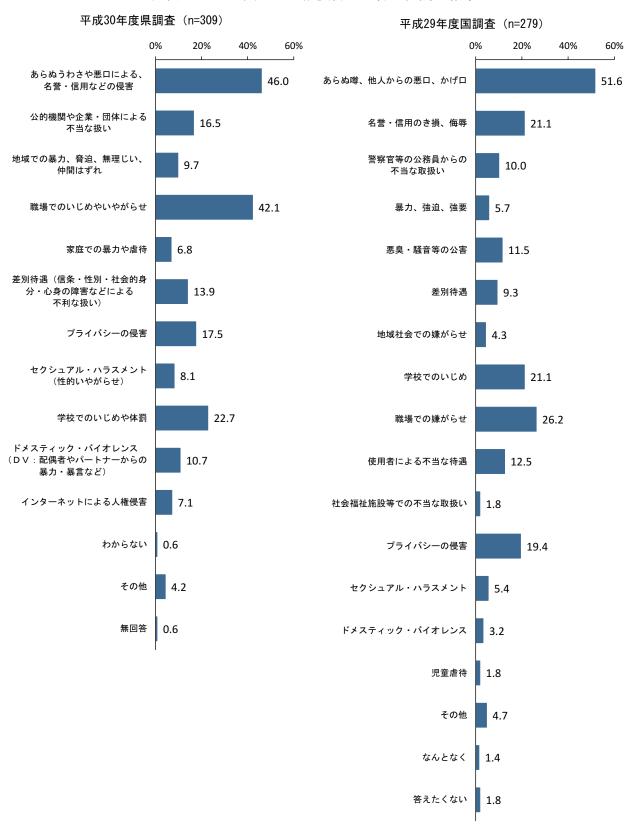
		n(人)	フォンなど)を悪用した人権侵害インターネット(パソコン、スマート	その他	不明・無回答
	全体	298	8. 4	6. 7	1. 3
	男性	87	10. 3	6. 9	0.0
性別	女性	205	7. 3	6. 3	2. 0
	答えたくない	3	0.0	0.0	0. 0
	10歳代	8	12. 5	12. 5	0.0
	20歳代	28	10. 7	7. 1	0.0
	30歳代	44	11. 4	2. 3	2. 3
年齢別	40歳代	59	11. 9	3. 4	0.0
別	50歳代	75	9. 3	8. 0	0.0
	60歳代	52	0. 0	3. 8	3. 8
	70歳代	21	4. 8	9. 5	4. 8
	80歳以上	9	0.0	44. 4	0. 0

※網掛け■は最も割合が高いもの

性別でみると、男性・女性いずれも「パワー・ハラスメント(職場で地位や人間関係などの優位性を用いて行ういやがらせやいじめ)」の割合が最も高く、次いで「うわさや陰口、悪口により名誉や信用を傷つけられた」が高くなっており、男性では続いて「公的機関や企業、団体による不当(ひどい、いい加減)な扱い」(26.4%)が高く、女性では続いて「学校でのいじめや体罰」(28.3%)が高くなっています。

年齢別でみると、20歳代・70歳代では「うわさや陰口、悪口により名誉や信用を傷つけられた」の割合が最も高く、30歳代では「パワー・ハラスメント(職場で地位や人間関係などの優位性を用いて行ういやがらせやいじめ)」「学校でのいじめや体罰」の割合が同率で最も高く、40歳代から60歳代の年齢層では「パワー・ハラスメント(職場で地位や人間関係などの優位性を用いて行ういやがらせやいじめ)」の割合が最も高くなっています。

図表 2-2-18 受けた人権侵害の内容 他調査結果



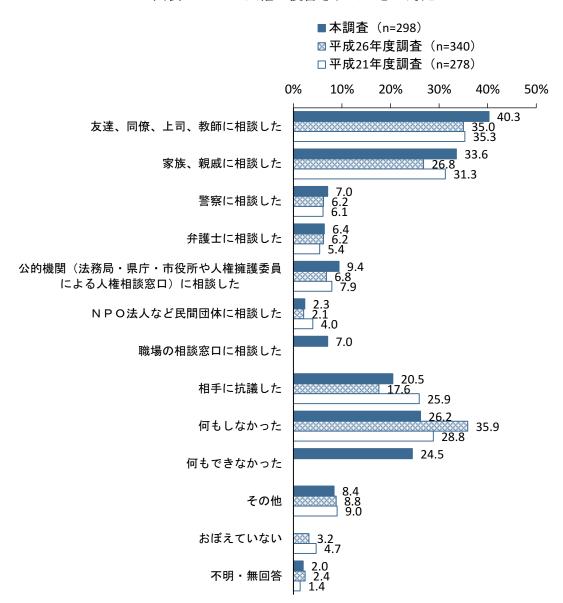
平成30年度県調査では、「あらぬうわさや悪口による、名誉・信用などの侵害」が46.0%で最も高く、次いで「職場でのいじめやいやがらせ」が42.1%、「学校でのいじめや体罰」が22.7%と続いており、本調査と類似する項目が上位3位となっています。

平成29年度国調査では、「あらぬ噂、他人からの悪口、かげ口」が51.6%で最も高く、次いで「職場での嫌がらせ」が26.2%、「名誉・信用のき損、侮辱」「学校でのいじめ」がいずれも21.1%と続いており、本調査と類似する項目が上位2位となっています。

【問3で「ある」を回答した人】

また、1~8 を選んだ方は、その問題は解決しましたか。9 を選んだ方は、その後どうなりましたか。

図表 2-2-19 人権が侵害されたときの対処



人権が侵害されたときの対処については、「友達、同僚、上司、教師に相談した」が 40.3%で 最も高く、次いで「家族、親戚に相談した」が 33.6%、「何もしなかった」が 26.2%と続いています。

平成 26 年度調査と比較すると、「家族、親戚に相談した」(33.6%) は平成 26 年度調査(26.8%) より 6.8 ポイント高く、「友達、同僚、上司、教師に相談した」(40.3%) は平成 26 年度調査(35.0%) より 5.3 ポイント高くなっています。

図表 2-2-20 人権が侵害されたときの対処 性別・年齢別

(単位:%)

		n (人)	友達、同僚、上司、教師に相談した	家族、親戚に相談した	警察に相談した	弁護士に相談した	談した 権擁護委員による人権相談窓口)に相 公的機関(法務局・県庁・市役所や人	NPO法人など民間団体に相談した	職場の相談窓口に相談した	相手に抗議した	何もしなかった	位:%) 一句もできなかった
	全体	298	40. 3	33. 6	7. 0	6. 4	9. 4	2. 3	7. 0	20. 5	26. 2	24. 5
	男性	87	32. 2	29. 9	8. 0	8. 0	10. 3	2. 3	8. 0	25. 3	33. 3	20. 7
性別	女性	205	43. 9	36. 1	6.8	5. 9	8. 3	2. 0	6. 3	18. 0	22. 4	26. 3
,,,,	答えたくない	3	33. 3	0.0	0.0	0.0	33. 3	0.0	0.0	33. 3	33. 3	33. 3
	10歳代	8	50.0	50.0	12. 5	0. 0	12. 5	0.0	0.0	12. 5	12. 5	0.0
	20歳代	28	60. 7	53. 6	7. 1	3. 6	0.0	0.0	0.0	14. 3	14. 3	10. 7
	30歳代	44	50. 0	52. 3	11. 4	6. 8	11. 4	4. 5	13. 6	27. 3	27. 3	25. 0
年齢	40歳代	59	37. 3	35. 6	8. 5	5. 1	10. 2	1. 7	13. 6	20. 3	35. 6	27. 1
別	50歳代	75	37. 3	29. 3	9. 3	6. 7	10. 7	2. 7	5. 3	21. 3	24. 0	28. 0
	60歳代	52	42. 3	19. 2	1.9	11. 5	7. 7	0. 0	1. 9	17. 3	25. 0	25. 0
	70歳代	21	19. 0	19. 0	0.0	4. 8	14. 3	0. 0	4. 8	14. 3	19. 0	33. 3
	80歳以上	9	0.0	11. 1	0.0	0. 0	0.0	11. 1	0.0	33. 3	44. 4	22. 2
			その	不明								

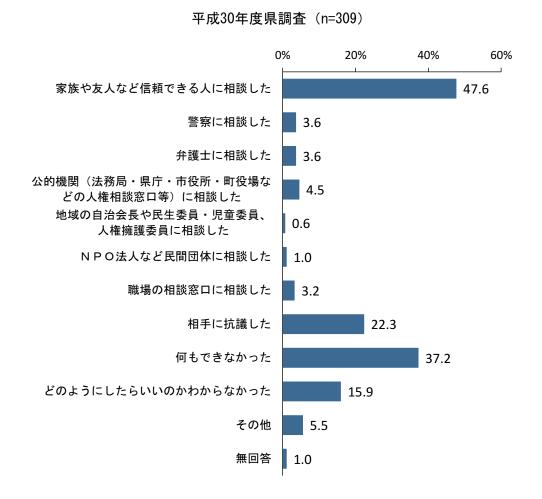
			l .	
		n (人)	その他	不明・無回答
	全体	298	8. 4	2. 0
	男性	87	11.5	3. 4
性 別	女性	205	7. 3	1. 5
,,,,	答えたくない	3	0.0	0.0
	10歳代	8	0. 0	0.0
	20歳代	28	3. 6	3. 6
	30歳代	44	2. 3	0. 0
年 齢 別	40歳代	59	13. 6	0. 0
別	50歳代	75	8. 0	1. 3
	60歳代	52	9. 6	5. 8
	70歳代	21	14. 3	4. 8
	80歳以上	9	11. 1	0.0

※網掛け■は最も割合が高いもの

性別でみると、男性では「何もしなかった」が33.3%で最も高く、次いで「友達、同僚、上司、教師に相談した」が32.2%、「家族、親戚に相談した」が29.9%と続いており、女性では「友達、同僚、上司、教師に相談した」が43.9%で最も高く、次いで「家族、親戚に相談した」が36.1%、「何もできなかった」が26.3%と続いています。

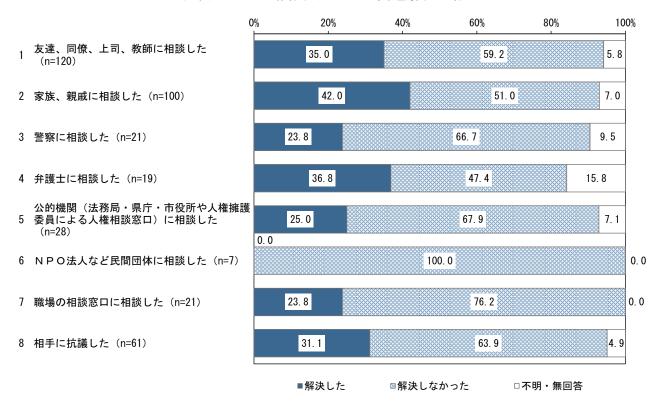
年齢別でみると,20歳代,40歳代から60歳代の年齢層では「友達、同僚、上司、教師に相談した」の割合が最も高く,30歳代では「家族、親戚に相談した」の割合が最も高く,70歳代では「何もできなかった」の割合が最も高くなっています。

図表 2-2-21 人権が侵害されたときの対処 平成 30 年度県調査

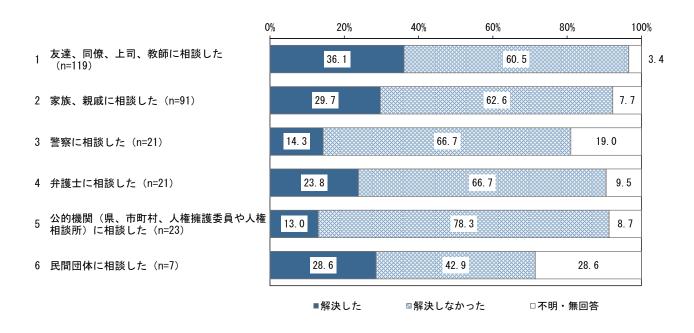


平成30年度県調査では、「家族や友人など信頼できる人に相談した」が47.6%で最も高く、次いで「何もできなかった」が37.2%、「相手に抗議した」が22.3%と続いています。

図表 2-2-22 相談先別にみる問題解決の有無



図表 2-2-23 相談先別にみる問題解決の有無 平成 26 年度調査



相談先別にみる問題解決の有無については、すべての相談先で「解決しなかった」の割合が高くなっています。

平成26年度調査と比較すると、「解決した」では、「家族、親戚に相談した」「警察に相談した」「弁護士に相談した」「公的機関(法務局・県庁・市役所や人権擁護委員による人権相談窓口)に相談した」が平成26年度調査よりも高くなっています。

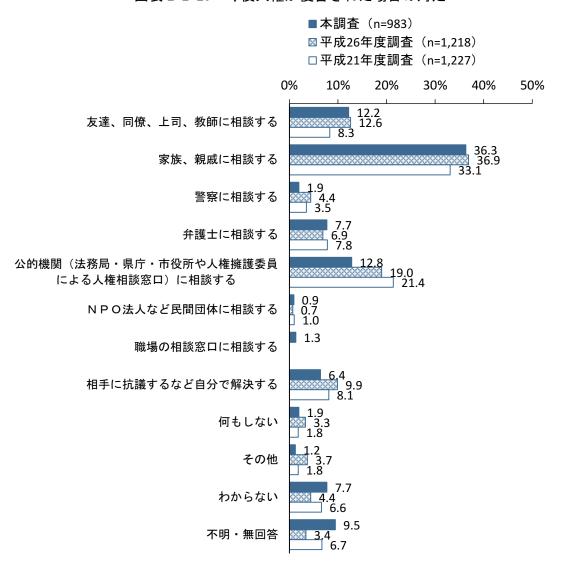
図表 2-2-24 何もしなかった人のその後の人権侵害について

9 何もしなかった (n=78) 42.3 44.9 12.8 ■人権侵害はなくなった ■その後も人権侵害は続いた □不明・無回答

何もしなかった人のその後の人権侵害については、「人権侵害はなくなった」が 42.3%、「その 後も人権侵害は続いた」が 44.9%となっています。

問4 今後もし、あなたが、自分の人権を侵害された場合、まずどのような対応をしますか。(Oは 1 つだけ)

図表 2-2-25 今後人権が侵害された場合の対処



今後,人権が侵害された場合の対処については,「家族、親戚に相談する」が 36.3%で最も高く,次いで「公的機関(法務局・県庁・市役所や人権擁護委員による人権相談窓口)に相談する」が 12.8%,「友達、同僚、上司、教師に相談する」が 12.2%と続いています。

平成 26 年度調査と比較すると、「公的機関(法務局・県庁・市役所や人権擁護委員による人権相談窓口)に相談する」(12.8%)が平成 26 年度調査(19.0%)より 6.2 ポイント低く、差が最も大きい項目となっています。

図表 2-2-26 今後人権が侵害された場合の対処 性別・年齢別

(単位:%)

		n (人)	友達、同僚、上司、教師に相談する	家族、親戚に相談する	警察に相談する	弁護士に相談する	談する 機擁護委員による人権相談窓口)に相 な的機関(法務局・県庁・市役所や人	NPO法人など民間団体に相談する	職場の相談窓口に相談する	相手に抗議するなど自分で解決する	何もしない	その他
	全体	983	12. 2	36. 3	1. 9	7. 7	12. 8	0. 9	1. 3	6. 4	1. 9	1. 2
	男性	334	11.4	24. 6	2. 1	10. 8	17. 1	1. 2	2. 7	10. 5	2. 1	0. 9
性別	女性	637	12. 9	42. 2	1.7	6. 3	10. 7	0.8	0. 6	4. 2	1. 9	1. 4
	答えたくない	6	0.0	33. 3	16. 7	0.0	16. 7	0.0	0.0	16. 7	0. 0	0.0
	10歳代	48	29. 2	50.0	0.0	2. 1	2. 1	0.0	0.0	4. 2	2. 1	0.0
	20歳代	92	29. 3	35. 9	3. 3	3. 3	2. 2	1.1	1.1	5. 4	6. 5	0. 0
	30歳代	118	11. 9	45.8	2. 5	6. 8	3. 4	0.0	0.8	2. 5	0.8	2. 5
年齢別	40歳代	159	13. 8	39. 6	1.9	8. 2	7. 5	0. 6	2. 5	5. 7	1. 3	0. 6
別	50歳代	187	9. 6	33. 7	0. 5	9. 1	12. 8	1.1	2. 1	7. 0	1.6	3. 7
	60歳代	202	9. 4	29. 2	2. 5	8. 9	18. 8	1. 5	1. 5	8. 9	2. 0	0.0
	70歳代	115	3. 5	30. 4	0. 9	11. 3	27. 0	1. 7	0.0	7. 8	1.7	0. 9
	80歳以上	55	3. 6	40.0	5. 5	5. 5	25. 5	0.0	0.0	7. 3	0.0	0. 0
			わから	不明.								

		n (人)	わからない	不明・無回答
	全体	983	7. 7	9. 5
Let	男性	334	9. 6	7. 2
性 別	女性	637	6. 9	10. 4
	答えたくない	6	0.0	16. 7
	10歳代	48	4. 2	6. 3
	20歳代	92	2. 2	9. 8
	30歳代	118	9. 3	13. 6
年 齢 別	40歳代	159	8. 2	10. 1
別	50歳代	187	9. 1	9. 6
別	60歳代	202	6. 9	10. 4
	70歳代	115	9. 6	5. 2
	80歳以上	55	9. 1	3. 6

※網掛け■は最も割合が高いもの

性別でみると、男性では「家族、親戚に相談する」が24.6%で最も高く、次いで「公的機関(法務局・県庁・市役所や人権擁護委員による人権相談窓口)に相談する」が17.1%、「友達、同僚、上司、教師に相談する」が11.4%と続いており、女性では「家族、親戚に相談する」が42.2%で最も高く、次いで「友達、同僚、上司、教師に相談する」が12.9%、「公的機関(法務局・県庁・市役所や人権擁護委員による人権相談窓口)に相談する」が10.7%と続いています。

年齢別でみると、すべての年齢層で「家族、親戚に相談する」の割合が最も高くなっており、10歳代から40歳代の年齢層では次いで「友達、同僚、上司、教師に相談する」の割合が高く、50歳代以上の年齢層では次いで「公的機関(法務局・県庁・市役所や人権擁護委員による人権相談の)に相談する」の割合が最も高くなっています。

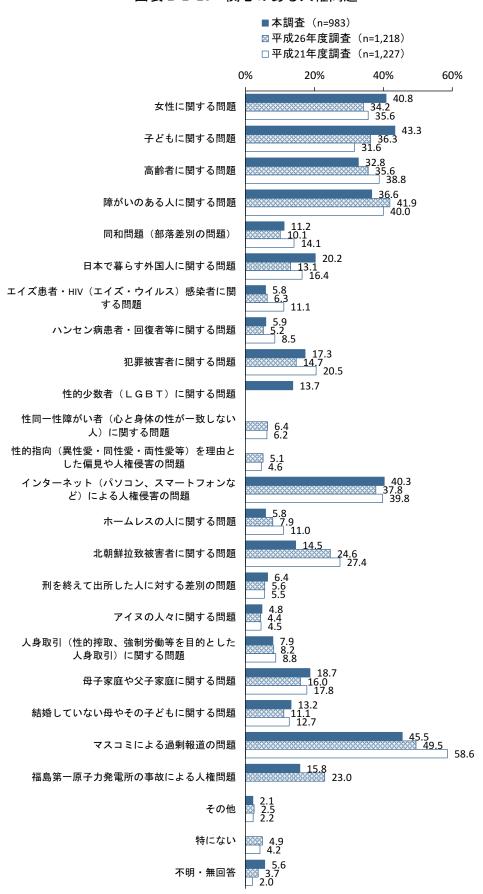
図表 2-2-27 今後人権が侵害された場合の対処 人権が侵害されたときの対処別

	(単位:%												
	n (人)	友達、同僚、上司、教師に相談する	家族、親戚に相談する	警察に相談する	弁護士に相談する	談する機関(法務局・県庁・市役所や人公的機関(法務局・県庁・市役所や人	NPO法人など民間団体に相談する	職場の相談窓口に相談する	相手に抗議するなど自分で解決する	何もしない	その他	わからない	不明・無回答
全体	983	12. 2	36. 3	1. 9	7. 7	12. 8	0. 9	1. 3	6. 4	1. 9	1. 2	7.7	9. 5
友達、同僚、上司、教師に相談した	120	22. 5	23. 3	2. 5	5. 8	5. 0	0. 8	1. 7	5. 8	2. 5	3. 3	8. 3	18. 3
家族、親戚に相談した	100	15. 0	41. 0	3. 0	5. 0	1. 0	0. 0	2. 0	4. 0	2. 0	2. 0	6. 0	19. 0
警察に相談した	21	14. 3	23. 8	0. 0	14. 3	4. 8	0. 0	0.0	0. 0	0.0	4. 8	4. 8	33. 3
弁護士に相談した	19	15. 8	21. 1	0. 0	10. 5	10. 5	0. 0	0.0	0. 0	0. 0	0. 0	10. 5	31. 6
公的機関(法務局・県庁・市役所や人権擁護委員による人権相談窓口)に相談した	28	3. 6	14. 3	0. 0	7. 1	17. 9	0. 0	0.0	7. 1	0. 0	0. 0	7. 1	42. 9
N P O法人など民間団体に相談 した	7	14. 3	0. 0	0. 0	14. 3	14. 3	0. 0	0.0	0. 0	0.0	0. 0	0.0	57. 1
職場の相談窓口に相談した	21	9. 5	9. 5	0. 0	23. 8	14. 3	0. 0	4. 8	0. 0	0.0	0. 0	9. 5	28. 6
相手に抗議した	61	16. 4	19. 7	0. 0	3. 3	11. 5	1. 6	1. 6	18. 0	0.0	3. 3	4. 9	19. 7
何もしなかった	78	16. 7	16. 7	1. 3	5. 1	9. 0	5. 1	2. 6	9. 0	5. 1	1. 3	19. 2	9. 0
何もできなかった	73	2. 7	24. 7	1. 4	4. 1	8. 2	1. 4	1. 4	11. 0	6. 8	2. 7	23. 3	12. 3
その他	25	8. 0	24. 0	0. 0	12. 0	12. 0	0. 0	4. 0	12. 0	8. 0	0. 0	8. 0	12. 0

※網掛け■は最も割合が高いもの

今後人権が侵害された場合の対処について、人権が侵害されたときの対処別にみると、「友達、 同僚、上司、教師に相談した」「家族、親戚に相談した」「警察に相談した」「弁護士に相談した」 「相手に抗議した」「何もできなかった」「その他」では、「家族、親戚に相談する」の割合が最も 高くなっています。

図表 2-2-28 関心のある人権問題



関心のある人権問題については、「マスコミによる過剰報道の問題」が 45.5%で最も高く、次いで「子どもに関する問題」が 43.3%、「女性に関する問題」が 40.8%と続いています。

平成 26 年度調査と比較すると、「日本で暮らす外国人に関する問題」(20.2%)では平成 26 年度調査(13.1%)より 7.1 ポイント高く、最も増加した項目となっており、次いで「子どもに関する問題」(43.3%)が平成 26 年度調査(36.3%)より 7.0 ポイント、「女性に関する問題」(40.8%)が平成 26 年度調査(34.2%)より 6.6 ポイント高くなっています。また、「北朝鮮拉致被害者に関する問題」(14.5%)では平成 26 年度調査(24.6%)より 10.1 ポイント低く、最も減少した項目となっており、次いで「福島第一原子力発電所の事故による人権問題」(15.8%)が平成 26 年度調査(23.0%)より 7.2 ポイント、「障がいのある人に関する問題」(36.6%)が平成 26 年度調査(41.9%)より 5.3 ポイント低くなっています。

図表 2-2-29 関心のある人権問題 性別・年齢別

(単位:%)

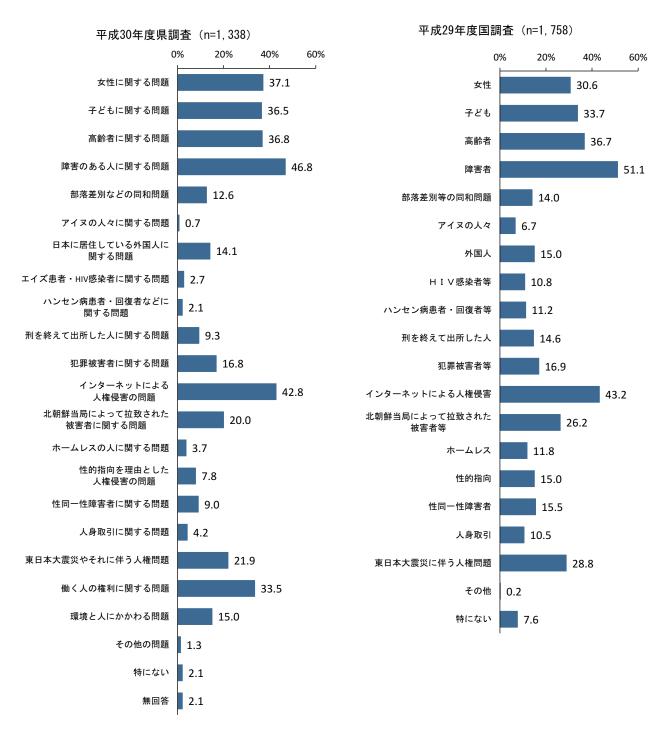
		n (人)	女性に関する問題	子どもに関する問題	高齢者に関する問題	障がいのある人に関する問題	同和問題(部落差別の問題)	日本で暮らす外国人に関する問題	ウイルス)感染者に関する問題エイズ患者・HIV(エイズ・	題ハンセン病患者・回復者等に関する問	犯罪被害者に関する問題	問題性的少数者(LGBT)に関する	フォンなど)による人権侵害の問題インターネット(パソコン、スマート
	全体	983	40. 8	43. 3	32. 8	36. 6	11. 2	20. 2	5. 8	5. 9	17. 3	13. 7	40. 3
.1-44-	男性	334	25. 1	35. 6	29. 3	34. 4	14. 7	25. 7	6. 9	6. 0	15. 9	13. 8	46. 1
性別	女性	637	49. 0	47. 3	34. 7	37. 5	9. 1	17. 0	5. 0	6. 0	18. 1	13. 7	37. 2
	答えたくない	6	50. 0	83. 3	33. 3	50. 0	16. 7	33. 3	33. 3	0. 0	16. 7	33. 3	50. 0
	10歳代	48	56. 3	37. 5	14. 6	35. 4	4. 2	35. 4	4. 2	0. 0	27. 1	31. 3	43. 8
	20歳代	92	48. 9	37. 0	16. 3	29. 3	6. 5	27. 2	1. 1	6. 5	12. 0	26. 1	41. 3
	30歳代	118	49. 2	48. 3	17. 8	28. 0	10. 2	16. 1	4. 2	0.8	18. 6	20. 3	44. 1
年齢	40歳代	159	48. 4	53. 5	23. 9	34. 0	11. 9	18. 9	6. 3	4. 4	17. 0	13. 8	42. 8
別	50歳代	187	38. 5	47. 1	41. 7	42. 2	14. 4	21. 9	8. 6	7. 5	17. 1	11. 8	44. 4
	60歳代	202	40. 6	42. 1	43. 6	44. 1	13. 4	23. 3	8. 4	10. 4	18. 3	9. 4	40. 1
	70歳代	115	25. 2	39. 1	40. 0	35. 7	7. 8	12. 2	3. 5	6. 1	17. 4	5. 2	33. 9
	80歳以上	55	14. 5	21. 8	49. 1	30. 9	10. 9	5. 5	3. 6	3. 6	12. 7	5. 5	20. 0
			ホームレス	北朝鮮拉致被害者	差別の問題の問題	アイヌの人々	的とした人身取引(性	母子家庭や父子家庭に	関する問題	マスコミによ	権問題一原子	中のや	不明·無回答
		n 人)	の人に関する問題	に関する問題	出所した人に対する	に関する問題	取引)に関する問題的搾取、強制労働等を目	関する問題	い母やその子どもに	よる過剰報道の問題	原子力発電所の事故による人		
	全体	<u>人</u> 983	人に関する問題 5.8	に関する問題 14.5	所 した人に対する 6.4	に関する問題 4.8	取引) に関する問題的搾取、強制労働等を目 7.9	関する 問題 18.7	母 や その 子 ど も に 13.2	報道 の 問題 45.5	事故による人 15.8	2. 1	5. 6
性	男性	983 334	人に関する問題 5.8 6.6	に関する問題 14.5 14.1	所した人に対する 6.4 7.5	に関する問題 4.8 6.6	取引)に関する問題 7.9 9.0	関する問題 18.7	母 やその子 どもに 13.2 12.0	報道の問題 45.5 47.9	事 は による 人 15.8	2. 4	6. 0
性別	男性 女性	983 334 637	人に関する問題 5.8 6.6 5.3	に関する問題 14.5 14.1 14.8	所した人に対する 6.4 7.5 5.8	に関する問題 4.8 6.6 3.9	取引)に関する問題 7.9 7.5	関する問題 18.7 18.0 18.8	母 やその子 どもに 13.2 12.0 13.8	報道 の問題 45.5 47.9 44.3	事故による人 15.8 14.7 16.5	2. 4 2. 0	6. 0 5. 3
性別	男性 女性 答えたくない	983 334 637 6	人に関する問題 5.8 6.6 5.3 16.7	に関する問題 14.5 14.1 14.8 33.3	所した人に対する 6.4 7.5 5.8 0.0	に関する問題 4.8 6.6 3.9 0.0	取引)に関する問題 7.9 9.0 7.5 0.0	関する問題 18.7 18.0 18.8 16.7	母やその子どもに 13.2 12.0 13.8 0.0	報道の問題 45.5 47.9 44.3 50.0	事故による人 15.8 14.7 16.5 16.7	2. 4 2. 0 0. 0	6. 0 5. 3 0. 0
性別	男性 女性 答えたくない 10歳代	983 334 637 6 48	人に関する問題 5.8 6.6 5.3 16.7 14.6	に関する問題 14.5 14.1 14.8 33.3 10.4	所した人に対する 6.4 7.5 5.8 0.0 6.3	に関する問題 4.8 6.6 3.9 0.0 4.2	取引)に関する問題 7.9 9.0 7.5 0.0 8.3	関する 問題 18.7 18.0 18.8 16.7 22.9	母やその子どもに 13.2 12.0 13.8 0.0	報道の問題 45.5 47.9 44.3 50.0 47.9	事故による人 15.8 14.7 16.5 16.7 20.8	2. 4 2. 0 0. 0	6. 0 5. 3 0. 0 6. 3
性別	男性 女性 答えたくない 10歳代 20歳代	983 334 637 6 48 92	人に関する問題 5.8 6.6 5.3 16.7 14.6 3.3	に関する問題 14.5 14.1 14.8 33.3 10.4 7.6	所した人に対する 6.4 7.5 5.8 0.0 6.3 3.3	に関する問題 4.8 6.6 3.9 0.0 4.2 5.4	取引) に関する問題 7.9 9.0 7.5 0.0 8.3 5.4	関する。 問題 18.7 18.0 18.8 16.7 22.9 20.7	母やその子どもに 13.2 12.0 13.8 0.0 12.5 13.0	報道の問題 45.5 47.9 44.3 50.0 47.9 41.3	事 は に よる 人 15.8 14.7 16.5 16.7 20.8 7.6	2. 4 2. 0 0. 0 0. 0 4. 3	6. 0 5. 3 0. 0 6. 3 4. 3
別	男性 女性 答えたくない 10歳代 20歳代 30歳代	983 334 637 6 48 92 118	人に関する問題 5.8 6.6 5.3 16.7 14.6 3.3 4.2	に関する問題 14.5 14.1 14.8 33.3 10.4 7.6	所した人に対する 6.4 7.5 5.8 0.0 6.3 3.3 4.2	に関する問題 4.8 6.6 3.9 0.0 4.2 5.4 1.7	取引)に関する問題 7.9 9.0 8.3 5.4 6.8	関する。 問題 18.7 18.0 18.8 16.7 22.9 20.7 15.3	母やその子どもに 13.2 12.0 13.8 0.0 12.5 13.0	報道の問題 45.5 47.9 44.3 50.0 47.9 41.3	事 はによる人 15.8 14.7 16.5 16.7 20.8 7.6 9.3	2. 4 2. 0 0. 0 0. 0 4. 3 2. 5	6. 0 5. 3 0. 0 6. 3 4. 3 6. 8
別 年齢	男性 女性 答えたくない 10歳代 20歳代 30歳代	983 334 637 6 48 92 118 159	人に関する問題 5.8 6.6 5.3 16.7 14.6 3.3 4.2 3.1	に関する問題 14.5 14.1 14.8 33.3 10.4 7.6 11.0 11.9	所した人に対する 6.4 7.5 5.8 0.0 6.3 3.3 4.2 6.9	に関する問題 4.8 6.6 3.9 0.0 4.2 5.4 1.7 3.1	取引) に関する問題 7.9 9.0 7.5 0.0 8.3 5.4 6.8 8.2	関する 問題 18.7 18.0 18.8 16.7 22.9 20.7 15.3 13.8	母やその子どもに 13.2 12.0 13.8 0.0 12.5 13.0 14.4 10.7	報道の問題 45.5 47.9 44.3 50.0 47.9 41.3 41.5	事 による人 15.8 14.7 16.5 16.7 20.8 7.6 9.3 12.6	2. 4 2. 0 0. 0 0. 0 4. 3 2. 5 1. 9	6. 0 5. 3 0. 0 6. 3 4. 3 6. 8 5. 0
別	男性 女性 答えたくない 10歳代 20歳代 30歳代 40歳代	983 334 637 6 48 92 118 159	人に関する問題 5.8 6.6 5.3 16.7 14.6 3.3 4.2 3.1 6.4	に関する問題 14.5 14.1 14.8 33.3 10.4 7.6 11.0 11.9	所した人に対する 6.4 7.5 5.8 0.0 6.3 3.3 4.2 6.9 8.0	に関する問題 4.8 6.6 3.9 0.0 4.2 5.4 1.7 3.1 6.4	取引) に関する問題 7.9 9.0 7.5 0.0 8.3 5.4 6.8 8.2 12.3	関する。 問題 18.7 18.0 18.8 16.7 22.9 20.7 15.3 13.8 17.6	母やその子どもに 13.2 12.0 13.8 0.0 12.5 13.0 14.4 10.7 14.4	報道の問題 45.5 47.9 44.3 50.0 47.9 41.3 41.5 51.3	事故による人 15.8 14.7 16.5 16.7 20.8 7.6 9.3 12.6 16.6	2. 4 2. 0 0. 0 0. 0 4. 3 2. 5 1. 9 2. 1	6. 0 5. 3 0. 0 6. 3 4. 3 6. 8 5. 0 3. 7
別 年齢	男性 女性 答えたくない 10歳代 20歳代 30歳代 40歳代 50歳代	983 334 637 6 48 92 118 159 187 202	人に関する問題 5.8 6.6 5.3 16.7 14.6 3.3 4.2 3.1 6.4 6.4	に関する問題 14.5 14.1 14.8 33.3 10.4 7.6 11.0 11.9 13.9 18.8	所した人に対する 6.4 7.5 5.8 0.0 6.3 3.3 4.2 6.9 8.0 6.9	に関する問題 4.8 6.6 3.9 0.0 4.2 5.4 1.7 3.1 6.4 5.4	取的 開題 7.9 9.0 7.5 0.0 8.3 5.4 6.8 8.2 12.3 6.4	関する。 問題 18.7 18.0 18.8 16.7 22.9 20.7 15.3 13.8 17.6 24.3	母やその子どもに 13.2 12.0 13.8 0.0 12.5 13.0 14.4 10.7 14.4 17.3	報道の問題 45.5 47.9 44.3 50.0 47.9 41.3 41.5 51.3	事 はによる人 15.8 14.7 16.5 16.7 20.8 7.6 9.3 12.6 16.6 19.3	2. 4 2. 0 0. 0 0. 0 4. 3 2. 5 1. 9 2. 1 3. 0	6. 0 5. 3 0. 0 6. 3 4. 3 6. 8 5. 0 3. 7
別 年齢	男性 女性 答えたくない 10歳代 20歳代 30歳代 40歳代	983 334 637 6 48 92 118 159	人に関する問題 5.8 6.6 5.3 16.7 14.6 3.3 4.2 3.1 6.4 6.4 6.1	に関する問題 14.5 14.1 14.8 33.3 10.4 7.6 11.0 11.9	所した人に対する 6.4 7.5 5.8 0.0 6.3 3.3 4.2 6.9 8.0	に関する問題 4.8 6.6 3.9 0.0 4.2 5.4 1.7 3.1 6.4	取引) に関する問題 7.9 9.0 7.5 0.0 8.3 5.4 6.8 8.2 12.3	関する。 問題 18.7 18.0 18.8 16.7 22.9 20.7 15.3 13.8 17.6	母やその子どもに 13.2 12.0 13.8 0.0 12.5 13.0 14.4 10.7 14.4	報道の問題 45.5 47.9 44.3 50.0 47.9 41.3 41.5 51.3	事故による人 15.8 14.7 16.5 16.7 20.8 7.6 9.3 12.6 16.6	2. 4 2. 0 0. 0 0. 0 4. 3 2. 5 1. 9 2. 1	6. 0 5. 3 0. 0 6. 3 4. 3 6. 8 5. 0 3. 7

※網掛け■は最も割合が高いもの

性別でみると、男性では「マスコミによる過剰報道の問題」が 47.9%で最も高く、次いで「インターネット(パソコン、スマートフォンなど)による人権侵害の問題」が 46.1%、「子どもに関する問題」が 35.6%と続いており、女性では「女性に関する問題」が 49.0%で最も高く、次いで「子どもに関する問題」が 47.3%、「マスコミによる過剰報道の問題」が 44.3%と続いています。

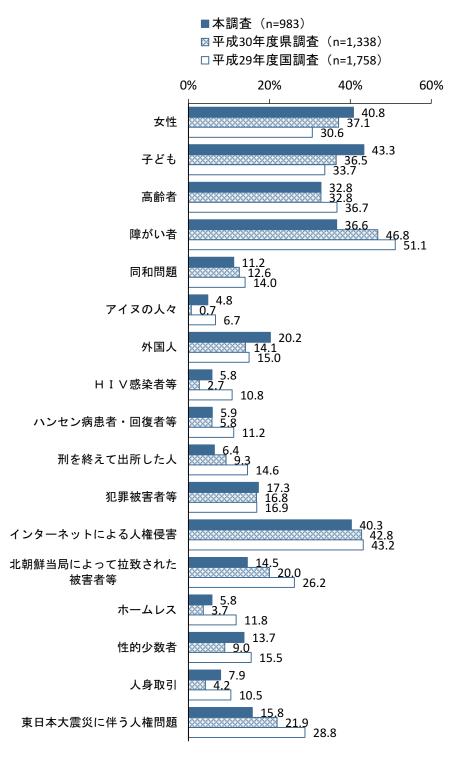
年齢別でみると、10歳代から30歳代の年齢層では「女性に関する問題」の割合が最も高く、40歳代では「子どもに関する問題」の割合が最も高く、50歳代から70歳代の年齢層では「マスコミによる過剰報道の問題」の割合が最も高く、80歳以上では「高齢者に関する問題」の割合が最も高くなっています。また、「性的少数者(LGBT)に関する問題」では、年齢が下がるにつれて割合が概ね高くなっており、10歳代が31.3%で他の年齢層よりも高くなっています。

図表 2-2-30 関心のある人権問題 他調査結果



平成 30 年度県調査では、「障害のある人に関する問題」が 46.8%で最も高く、次いで「インターネットによる人権侵害の問題」が 42.8%、「女性に関する問題」が 37.1%と続いています。 平成 29 年度国調査では、「障害者」が 51.1%で最も高く、次いで「インターネットによる人権侵害」が 43.2%、「高齢者」が 36.7%と続いています。

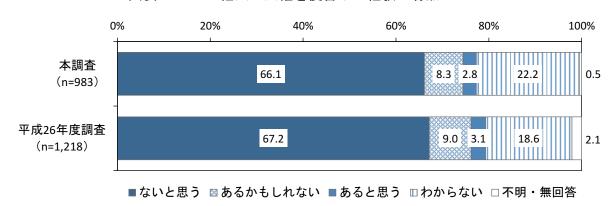
図表 2-2-31 関心のある人権問題 他調査結果



平成30年度県調査・平成29年度国調査と比較すると、「子ども」「外国人」が平成30年度県調査・平成29年度国調査よりも高く、「障がい者」「北朝鮮当局によって拉致された被害者等」「東日本大震災に伴う人権問題」が平成30年度県調査・平成29年度国調査よりも低くなっています。

問6 あなたは、今までに、他人の人権を侵害したことがあると思いますか。 (Oは 1 つだけ)

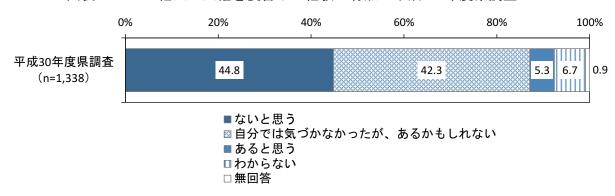
図表 2-2-32 他人の人権を侵害した経験の有無



他人の人権を侵害した経験の有無については、「ないと思う」が 66.1%で最も高く、次いで「わからない」が 22.2%、「あるかもしれない」が 8.3%と続いています。

平成26年度調査と比較すると、大きな差はみられません。

図表 2-2-33 他人の人権を侵害した経験の有無 平成 30 年度県調査



平成30年度県調査では、「ないと思う」が44.8%で最も高く、次いで「自分では気づかなかったが、あるかもしれない」が42.3%、「わからない」が6.7%と続いています。

20% 40% 60% 80% 100% 2.8 全体 0.5 66.1 8.3 🖁 22.2 (n=983) 3.3 男性 69.2 7.2 19.8 0.6 (n=334)女性 性 64.5 9.1 23.4 0.3 別 (n=637) 0.0 0.0 答えたくない 66.7 33.3 0.0 (n=6)4.2 10歳代 70.8 8.3 16.7 0.0 (n=48)20歳代 60.9 7.6 5.4 26.1 0.0 (n=92)30歳代 52.5 33.9 0.8 (n=118)40歳代 年 61.6 10.1 26.4 0.0 (n=159) 齢 別 50歳代 59.4 13.9 25.1 0.0 (n=187)2.0 60歳代 74.3 6.9 8 15.8 1.0 (n=202) 70歳代 78.3 16.5 0.0 (n=115)80歳以上 78.2 7.3 9.1 3.6 (n=55)

図表 2-2-34 他人の人権を侵害した経験の有無 性別・年齢別

■ないと思う 図あるかもしれない ■あると思う □わからない □不明・無回答

性別でみると、男性・女性いずれも「ないと思う」の割合が最も高くなっています。

年齢別でみると、すべての年齢層で「ないと思う」の割合が最も高くなっており、70歳代が78.3%で最も高く、30歳代が52.5%で最も低くなっており、差が25.8ポイントとなっています。また、「わからない」では、30歳代が33.9%で最も高く、80歳以上が9.1%で最も低くなっており、差が24.8ポイントとなっています。

BB C 1	【問6で「あるかもしれない」「あると思う」を回答した人】
問 6-1	どのような人権侵害でしたか。(自由記述)

他人の人権を侵害した経験の有無について、「あるかもしれない」「あると思う」を回答した人 110人中、83人(回答率75.5%)から自由記述による回答があり、下表のとおり分類・集計しま した。

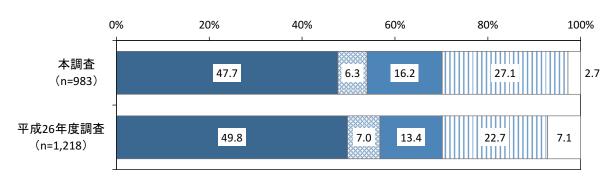
なお、1人の回答が複数の内容にわたる場合は、複数回答として、それぞれの内容に分類しています。

図表 2-2-35 他人の人権を侵害した経験 具体的内容

具体的内容	件数 (件)
自分では気づいていないが、人権侵害したことがあるかもしれない	16
パワー・ハラスメント	14
差別,偏見	12
人を傷つける言動	9
悪口、陰口、うわさなど	9
いじめ	6
セクシャル・ハラスメント	4
体罰	4
仲間はずれ	3
その他	12
合計	89

問7 あなたのまわりで、今までに、人権侵害が発生したことがありましたか。 (○は1つだけ)

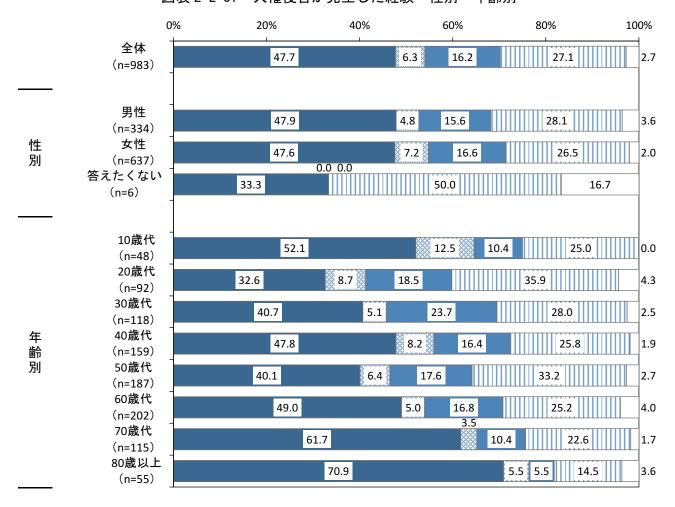
図表 2-2-36 人権侵害が発生した経験



■ないと思う 図あるかもしれない ■あると思う □わからない □不明・無回答

人権侵害が発生した経験については、「ないと思う」が 47.7%で最も高く、次いで「わからない」が 27.1%、「あると思う」が 16.2%と続いています。

平成26年度調査と比較すると、大きな差はみられません。



図表 2-2-37 人権侵害が発生した経験 性別・年齢別

■ないと思う 図あるかもしれない ■あると思う □わからない □不明・無回答

性別でみると、男性・女性いずれも「ないと思う」の割合が最も高くなっています。

年齢別でみると、すべての年齢層で「ないと思う」の割合が最も高くなっており、80 歳以上が70.9%で最も高く、20 歳代が32.6%で最も低くなっており、差が38.3 ポイントとなっています。また、「わからない」では、20 歳代が35.9%で最も高く、80 歳以上が14.5%で最も低くなっており、差が21.4 ポイントとなっています。

問7-1 【問7で「あるかもしれない」「あると思う」を回答した人】 どのような人権侵害でしたか。(自由記述)

人権侵害が発生した経験について、「あるかもしれない」「あると思う」を回答した人 221 人中、184 人(回答率 83.3%)から自由記述による回答があり、下表のとおり分類・集計しました。なお、1 人の回答が複数の内容にわたる場合は、複数回答として、それぞれの内容に分類しています。

図表 2-2-38 人権侵害が発生した経験 具体的内容

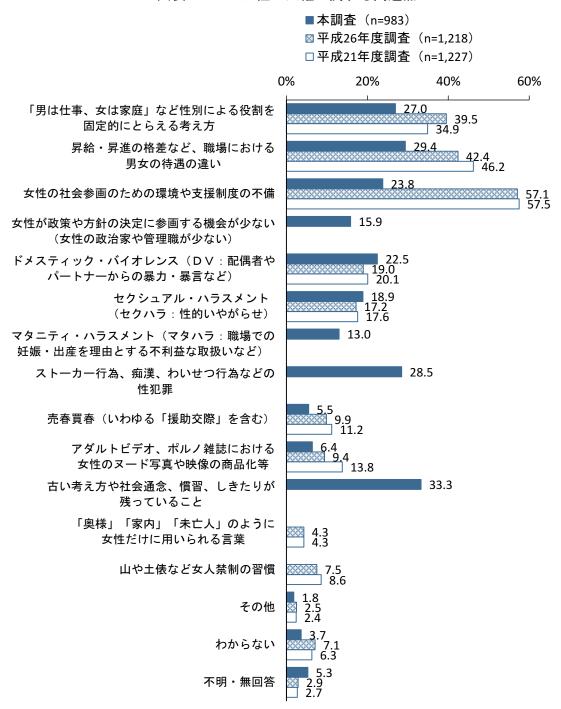
具体的内容	件数 (件)
差別,偏見	51
いじめ	47
パワー・ハラスメント	44
セクシャル・ハラスメント	21
悪口、陰口、うわさなど	18
不当な扱いを受けた	13
インターネットによる人権侵害	6
家庭内での暴力、体罰	6
暴力,体罰	5
人を傷つける言動	3
その他	15
合計	229

3. 女性の人権について

問8

女性に関することがらで、人権の尊重という点からみて、あなたが特に問題があると思われるのはどのようなことですか。(Oは3つまで)

図表 2-3-1 女性の人権に関する問題点



女性の人権に関する問題点については、「古い考え方や社会通念、慣習、しきたりが残っていること」が33.3%で最も高く、次いで「昇給・昇進の格差など、職場における男女の待遇の違い」が29.4%、「ストーカー行為、痴漢、わいせつ行為などの性犯罪」が28.5%と続いています。

図表 2-3-2 女性の人権に関する問題点 性別・年齢別

		n (人)	る役割を固定的にとらえる考え方「男は仕事、女は家庭」など性別によ	男女の待遇の違い	度の不備女性の社会参画のための環境や支援制	少ない)女性の政治家や管理職が会が少ない(女性の政治家や管理職が	暴言など) V:配偶者やパートナーからの暴力・ドメスティック・バイオレンス(ロ	ラ:性的いやがらせ) セクシュアル・ハラスメント(セクハ	不利益な取扱いなど) マタニティ・ハラスメント (マタハ	行為などの性犯罪 ストーカー行為、痴漢、わいせつ	を含む) 売春買春(いわゆる「援助交際」	位 女性のヌード写真や映像の商品化等 女性のヌード写真や映像の商品化等 アダルトビデオ、ポルノ雑誌における
	全体	983	27. 0	29. 4	23. 8	15. 9		18. 9	13. 0		5. 5	6. 4
ıl-Al-	男性	334	26. 9	25. 1	23. 4	15. 3	20. 1	18. 0	11. 4	31. 1	4. 5	3. 6
性 別	女性	637	27. 2	31. 9	24. 0	16. 5	23. 4	19. 6	13. 8	27. 2	6. 1	7. 8
	答えたくない	6	33. 3	16. 7	16. 7	0.0	50. 0	0.0	0.0	16. 7	0. 0	16. 7
	10歳代	48	35. 4	43.8	12. 5	10. 4	16. 7	27. 1	27. 1	27. 1	2. 1	0. 0
	20歳代	92	33. 7	33. 7	9. 8	12. 0	23. 9	22. 8	21. 7	32. 6	4. 3	3. 3
	30歳代	118	36. 4	33. 1	27. 1	11.0	20. 3	11. 9	20. 3	23. 7	2. 5	4. 2
年齢	40歳代	159	27. 0	28. 9	23. 9	15. 1	23. 3	21. 4	15. 1	27. 0	5. 0	3. 1
別	50歳代	187	19. 3	31. 6	25. 7	11. 8	27. 8	25. 1	9. 1	32. 6	6. 4	6. 4
	60歳代	202	23. 3	26. 7	29. 7	21.8	23. 3	19. 8	10. 4	30. 2	7. 9	5. 4
	70歳代	115	31. 3	22. 6	25. 2	20. 9	17. 4	8. 7	5. 2	27. 0	7. 0	13. 9
	80歳以上	55	20. 0	21.8	18. 2	23. 6	16. 4	10. 9	1.8	20. 0	3. 6	20. 0
		n 人	しきたりが残っている古い考え方や社会通念	その他	わからない	不明・無回答						

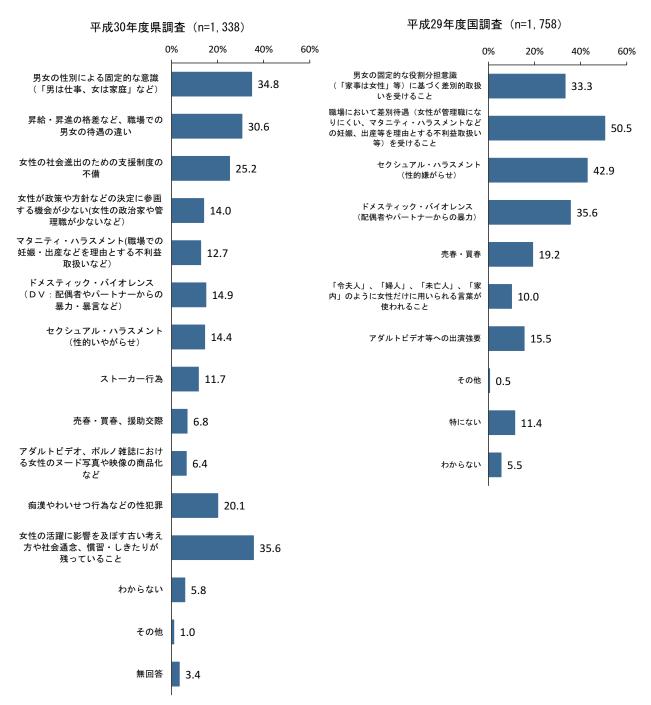
		n (人)	しきたりが残っていること古い考え方や社会通念、慣習、	その他	わからない	不明・無回答
	全体	983	33. 3	1.8	3. 7	5. 3
Let	男性	334	33. 2	2. 4	4. 5	5. 4
性別	女性	637	33. 8	1. 6	3. 1	5. 0
	答えたくない	6	16. 7	0.0	16. 7	0.0
	10歳代	48	20.8	2. 1	8. 3	6. 3
	20歳代	92	29. 3	2. 2	4. 3	3. 3
	30歳代	118	33. 1	2. 5	2. 5	8. 5
年齢別	40歳代	159	35. 2	4. 4	2. 5	5. 7
別	50歳代	187	35. 8	1. 1	4. 3	2. 7
	60歳代	202	35. 1	1.0	1.0	5. 4
	70歳代	115	33. 9	0. 9	6. 1	3. 5
	80歳以上	55	30. 9	0.0	7. 3	9. 1

※網掛け■は最も割合が高いもの

性別でみると、男性では「古い考え方や社会通念、慣習、しきたりが残っていること」が33.2%で最も高く、次いで「ストーカー行為、痴漢、わいせつ行為などの性犯罪」が31.1%と続いており、女性では「古い考え方や社会通念、慣習、しきたりが残っていること」が33.8%で最も高く、次いで「昇給・昇進の格差など、職場における男女の待遇の違い」が31.9%と続いています。

年齢別でみると、10歳代では「昇給・昇進の格差など、職場における男女の待遇の違い」の割合が最も高く、20歳代では「「男は仕事、女は家庭」など性別による役割を固定的にとらえる考え方」「昇給・昇進の格差など、職場における男女の待遇の違い」が同率で最も高く、30歳代では「「男は仕事、女は家庭」など性別による役割を固定的にとらえる考え方」の割合が最も高く、40歳代以上の年齢層では「古い考え方や社会通念、慣習、しきたりが残っていること」の割合が最も高くなっています。

図表 2-3-3 女性の人権に関する問題点 他調査結果



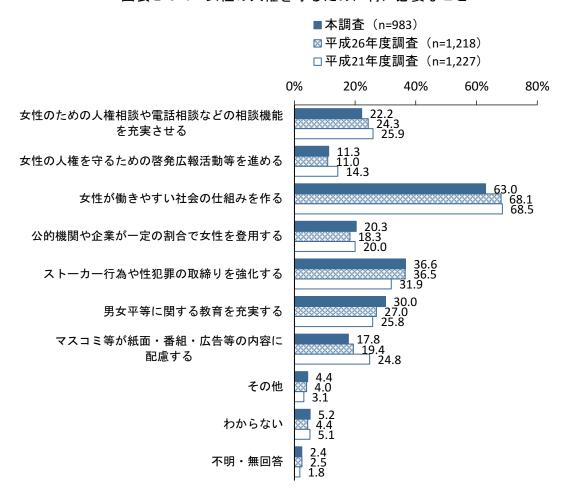
※平成30年度県調査では3つまでの複数回答,平成29年度国調査では複数回答

平成30年度県調査では、「女性の活躍に影響を及ぼす古い考え方や社会通念、慣習・しきたりが残っていること」が35.6%で最も高く、次いで「男女の性別による固定的な意識(「男は仕事、女は家庭」など)」が34.8%、「昇給・昇進の格差など、職場での男女の待遇の違い」が30.6%と続いています。

平成29年度国調査では、「職場において差別待遇(女性が管理職になりにくい、マタニティ・ハラスメントなどの妊娠、出産等を理由とする不利益取扱い等)を受けること」が50.5%で最も高く、次いで「セクシュアル・ハラスメント(性的嫌がらせ)」が42.9%、「ドメスティック・バイオレンス(配偶者やパートナーからの暴力)」が35.6%と続いています。

問9 あなたは、女性の人権を守るために特に必要なことはどのようなことだと思いますか。(Oは3つまで)

図表 2-3-4 女性の人権を守るために特に必要なこと



女性の人権を守るために特に必要なことについては、「女性が働きやすい社会の仕組みを作る」が 63.0%で最も高く、次いで「ストーカー行為や性犯罪の取締りを強化する」が 36.6%、「男女 平等に関する教育を充実する」が 30.0%と続いています。

平成 26 年度調査と比較すると、上位 3 位は平成 26 年度調査と同順となっており、「女性が働きやすい社会の仕組みを作る」(63.0%)では、平成 26 年度調査(68.1%)より 5.1 ポイント低くなっています。

図表 2-3-5 女性の人権を守るために特に必要なこと 性別・年齢別

(単位:%)

												位:%)
		n (人)	などの相談機能を充実させる女性のための人権相談や電話相談	活動等を進める女性の人権を守るための啓発広報	作る女性が働きやすい社会の仕組みを	女性を登用する公的機関や企業が一定の割合で	強化するストーカー行為や性犯罪の取締りを	男女平等に関する教育を充実する	容に配慮するマスコミ等が紙面・番組・広告等の内	その他	いないかか	不明・無回答
	全体	983	22. 2	11. 3	63. 0	20. 3	36. 6	30. 0	17. 8	4. 4	5. 2	2. 4
1.1	男性	334	20. 7	12. 3	57. 8	21. 6	36. 2	26. 9	15. 9	4. 2	6. 3	2. 7
性別	女性	637	23. 1	10.8	66. 4	19. 8	37. 2	31.9	18. 7	4. 2	4. 7	2. 0
,,,,	答えたくない	6	16. 7	0.0	33. 3	16. 7	16. 7	16. 7	33. 3	16. 7	0.0	0.0
	10歳代	48	16. 7	6. 3	62. 5	16. 7	39. 6	29. 2	12. 5	0.0	10. 4	2. 1
	20歳代	92	14. 1	5. 4	58. 7	12. 0	44. 6	31.5	13. 0	4. 3	8. 7	1.1
	30歳代	118	17. 8	10. 2	70. 3	22. 9	30. 5	31. 4	16. 1	7. 6	3. 4	2. 5
年齢別	40歳代	159	14. 5	10. 1	65. 4	23. 3	35. 2	30. 2	13. 8	6. 3	5. 7	2. 5
別	50歳代	187	19. 3	14. 4	61.5	21. 4	41. 7	31. 6	21. 9	3. 2	4. 3	1. 6
	60歳代	202	32. 7	12. 9	67. 8	21. 8	36. 6	30. 7	18. 3	4. 5	2. 5	3. 0
	70歳代	115	27. 8	13. 0	54. 8	20. 0	36. 5	24. 3	21. 7	3. 5	7. 8	0. 9
	80歳以上	55	32. 7	10. 9	56. 4	16. 4	23. 6	29. 1	20. 0	0.0	5. 5	5. 5

※網掛け■は最も割合が高いもの

性別でみると、男性・女性いずれも「女性が働きやすい社会の仕組みを作る」の割合が最も高く、次いで「ストーカー行為や性犯罪の取締りを強化する」、「男女平等に関する教育を充実する」の順で割合が高くなっており、「女性が働きやすい社会の仕組みを作る」では、女性が 66.4%で、男性(57.8%)よりも8.6 ポイント高くなっています。

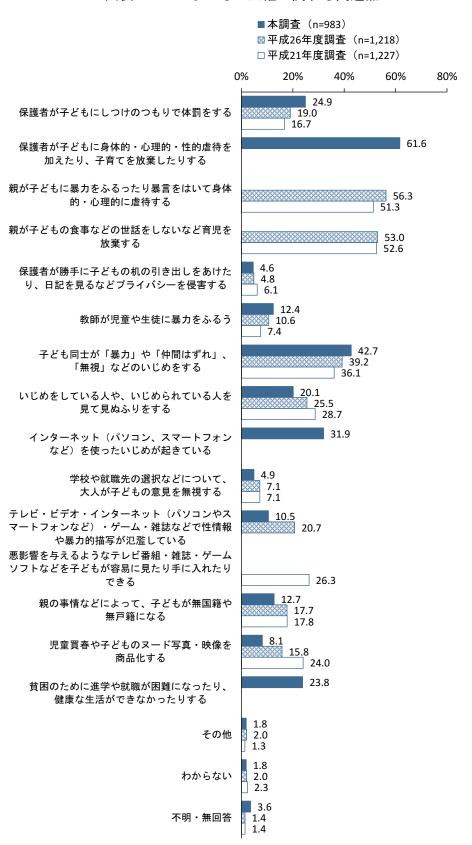
年齢別でみると、すべての年齢層で「女性が働きやすい社会の仕組みを作る」の割合が最も高くなっており、10歳代、20歳代、40歳代から70歳代の年齢層では次いで「ストーカー行為や性犯罪の取締りを強化する」の割合が高く、30歳代では次いで「男女平等に関する教育を充実する」の割合が高く、80歳以上では次いで「女性のための人権相談や電話相談などの相談機能を充実させる」の割合が高くなっています。

4. 子どもの人権について

問 10

子どもに関することがらで、人権の尊重という点からみて、あなたが特に問題があると思われるのはどのようなことですか。(〇は3つまで)

図表 2-4-1 子どもの人権に関する問題点



子どもの人権に関する問題点については、「保護者が子どもに身体的・心理的・性的虐待を加えたり、子育てを放棄したりする」が61.6%で最も高く、次いで「子ども同士が「暴力」や「仲間はずれ」、「無視」などのいじめをする」が42.7%、「インターネット(パソコン、スマートフォンなど)を使ったいじめが起きている」が31.9%と続いています。

図表 2-4-2 子どもの人権に関する問題点 性別・年齢別

(単位:%)

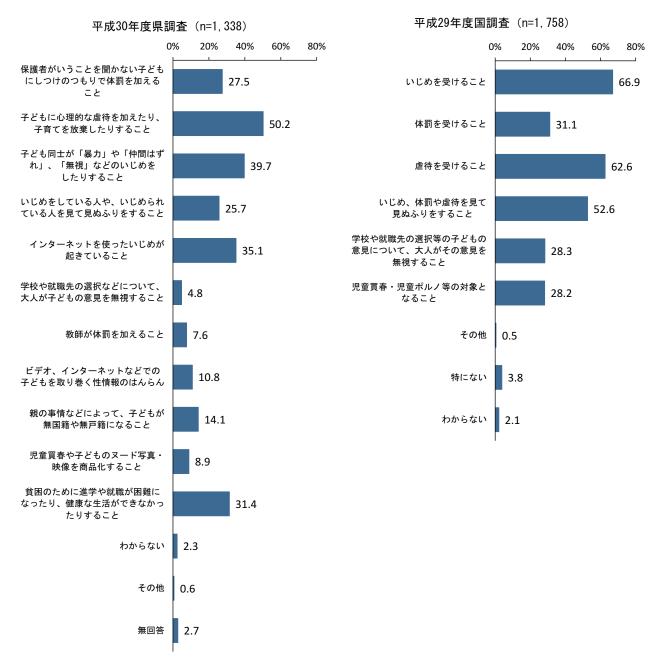
	A ##	n (人)	する保護者が子どもにしつけのつもりで体罰を	を加えたり、子育てを放棄したりする保護者が子どもに身体的・心理的・性的虐待	侵害する。おいたり、日記を見るなどプライバシーを保護者が勝手に子どもの机の引き出しを	教師が児童や生徒に暴力をふるう	視」などのいじめをする子ども同士が「暴力」や「仲間はずれ」、「無い	人を見て見ぬふりをするいじめをしている人や、いじめられている	ど)を使ったいじめが起きているインターネット(パソコン、スマートフォンな	子どもの意見を無視する学校や就職先の選択などについて、大人が	や暴力的描写が氾濫しているマートフォンなど)・ゲーム・雑誌などで性情報テレビ・ビデオ・インターネット(パソコンやステレビ・ビデオ・インターネット(パソコンやス	位 無戸籍になる これ 子どもが無国籍や は (4)線の事情などによって、子どもが無国籍や (4)の
	全体	983	24. 9	61.6	4. 6	12. 4	42. 7	20. 1	31. 9		10. 5	12. 7
性	男性	334	24. 3	55. 4	6. 0	9. 9	46. 4	22. 8	35. 9		9. 9	10. 5
別	女性	637	25 . 1 50. 0	65. 1 50. 0	3. 9 0. 0	13. 8 16. 7	41.1	19. 2 0. 0	30. 3 0. 0	4. 9 0. 0	10. 8 16. 7	13. 5 33. 3
	答えたくない 10歳代	6 48	27. 1	58. 3	16. 7	14. 6	33. 3 39. 6	16. 7	18. 8		0. 0	14. 6
	20歳代	92	22. 8	55. 4	8. 7	10. 9	39. 0	18. 5	32. 6	10. 9	4. 3	13. 0
	30歳代	118	18. 6	61. 9	6. 8	13. 6	45. 8	23. 7	36. 4	5. 1	8. 5	9. 3
年齡	40歳代	159	25. 2	61. 0	3. 8	7. 5	41.5	20. 8	37. 1	3. 8	11. 9	11. 3
齢別	50歳代	187	23. 5	73. 3	2. 7	12. 3	34. 8	18. 7	42. 2	2. 7	13. 9	15. 0
733	60歳代	202	24. 3	64. 4	2. 0	14. 9	48. 5	23. 3	29. 2	3. 5	9. 9	15. 3
	70歳代	115	34. 8	55. 7	0.0	11. 3	53. 9	20. 0	22. 6		16. 5	7. 0
	00뉴미 L	55	27. 3	40.0	10. 9	20. 0	32. 7	10. 9	14. 5	5. 5	9. 1	14. 5
	80歳以上	55		40. 0				10. 3	14. 0	0. 0	0. 1	14. 0
	00戚以上	n (人)	商品化する 南品化する 原童買春や子どものヌード写真・映像を	健康な生活ができなかったりする。	その他	20.0 わからない	不明・無回答	10.0	17.0	5. 5	5.1	14.0
	全体	n (人)	商品化する	健康な生活ができなかったりする貧困のために進学や就職が困難になったり、 23.8	その他 1.8	わからない 1.8	不明·無回答 3.6	10.0	17.0	5. 5	5.1	14.0
杜	全体	983 334	商品化する 児童買春や子どものヌード写真・映像を 8.6.0	健康な生活ができなかったりする 貧困のために進学や就職が困難になったり、 23.8 20.7	その他 他 1.8 3.3	わからない 1.8	不明 · 無回答 3.6 4.2	10.0	17.0	5. 5	5.1	14.0
性別	全体	983 334 637	商品化する 児童買春や子どものヌード写真・映像を 8. 6. 9. 3	健康な生活ができなかったりする 20.7 25.4	その他 他 1.8 3.3 1.1	わからない 1.8 1.2 2.2	不明 ・無回答 3.6 4.2 2.8	10.0	14.0	5. 5	5.1	14.0
	全体 男性 女性 答えたくない	983 334 637 6	商品化する 児童買春や子どものヌード写真・映像を 8.1 6.7 9.3 7	健康な生活ができなかったりする 貧困のために進学や就職が困難になったり、 23.8 20.7 25.4 0.0	その他 他 1.8 3.3 1.1 0.0	わからない 1.8 1.2 2.2 0.0	不明·無回答 3.6 4.2 2.8 16.7	10.0	17.0	5. 5	5.1	14.0
	全体 男性 女性 答えたくない 10歳代	983 334 637 6 48	商品化する 児童買春や子どものヌード写真・映像を 8.1 6.0 9.3 16.7 8.3	健康な生活ができなかったりする 23.8 20.7 25.4 0.0 29.2	その他 他 1.8 3.3 1.1 0.0 2.1	カからない 1.8 1.2 2.2 0.0 0.0	不明 ・無回答 3.6 4.2 2.8 16.7 4.2	10.0	17.0	5. 5	5.1	14.0
	全体 男性 女性 答えたくない 10歳代 20歳代	983 334 637 6 48 92	商品化する 児童買春や子どものヌード写真・映像を 8.1 9.3 16.7 8.3 6.5	健康な生活ができなかったりする 23.8 20.7 25.4 20.7	その他 他 1.8 3.3 1.1 0.0 2.1 1.1	1.8 1.2 2.2 0.0 0.0 2.2	不明 ・無回答 3.6 4.2 2.8 16.7 4.2 3.3	10.0	17.0	5. 0	5. 1	14.0
別	全体 男性 女性 答えたくない 10歳代 20歳代 30歳代	983 334 637 6 48 92 118	商品化する R ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	健康な生活ができなかったりする 23.8 20.7 25.4 0.0 29.2 20.7 21.2	1.8 3.3 1.1 0.0 2.1 1.1 2.5	1.8 1.2 2.2 0.0 0.0 2.2 1.7	不明·無回答 3.6 4.2 2.8 16.7 4.2 3.3 2.5	10.0	17.0	5. 5	5.1	14.0
別年齢	全体 男性 女性 答えたくない 10歳代 20歳代 30歳代	983 334 637 6 48 92 118 159	R ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	健康な生活ができなかったりする 23.8 20.7 25.4 0.0 29.2 20.7 21.2	その他 1.8 3.3 1.1 0.0 2.1 1.1 2.5 1.9	1.8 1.2 2.2 0.0 0.0 2.2 1.7 2.5	不明· 無回答 3.6 4.2 2.8 16.7 4.2 3.3 2.5 4.4	10.0	17.0	5. 5	5.1	14.0
別	全体 男性 女性 答えたくない 10歳代 20歳代 30歳代 40歳代	983 334 637 6 48 92 118 159	R 8.1 月童買春や子どものヌード写真・映像を 8.1 6.0 9.3 16.7 8.5 8.5 10.1 6.4 4	健康な生活ができなかったりする 23.8 20.7 25.4 0.0 29.2 20.7 21.2 24.6	1.8 3.3 1.1 0.0 2.1 1.1 2.5 1.9 1.6	1.8 1.2 2.2 0.0 0.0 2.2 1.7 2.5 1.1	不明 ・無回答 3.6 4.2 2.8 16.7 4.2 3.3 2.5 4.4 3.2	10.0	17.0	5. 5	5. 1	14.0
別年齢	全体 男性 女性 答えたくない 10歳代 20歳代 30歳代 40歳代 50歳代	983 334 637 6 48 92 118 159 187 202	Ring a factor of the factor	健康な生活ができなかったりする 23.8 20.7 25.4 0.0 29.2 20.7 21.2 24.6 28.2	1.8 3.3 1.1 0.0 2.1 1.1 2.5 1.9 1.6 2.0	1.8 1.2 2.2 0.0 0.0 2.2 1.7 2.5 1.1	不明· 無回答 3.6 4.2 2.8 16.7 4.2 3.3 2.5 4.4 3.2 2.0	10.0	17.0	5. 5	5.1	14.0
別年齢	全体 男性 女性 答えたくない 10歳代 20歳代 30歳代 40歳代	983 334 637 6 48 92 118 159	R 8.1 月童買春や子どものヌード写真・映像を 8.1 6.0 9.3 16.7 8.5 8.5 10.1 6.4 4	健康な生活ができなかったりする 23.8 20.7 25.4 0.0 29.2 20.7 21.2 24.6	1.8 3.3 1.1 0.0 2.1 1.1 2.5 1.9 1.6	1.8 1.2 2.2 0.0 0.0 2.2 1.7 2.5 1.1	不明 ・無回答 3.6 4.2 2.8 16.7 4.2 3.3 2.5 4.4 3.2	10.0	17.0	5. 5	5.1	14.0

※網掛け■は最も割合が高いもの

性別でみると、男性・女性いずれも「保護者が子どもに身体的・心理的・性的虐待を加えたり、子育てを放棄したりする」の割合が最も高く、次いで「子ども同士が「暴力」や「仲間はずれ」、「無視」などのいじめをする」、「インターネット(パソコン、スマートフォンなど)を使ったいじめが起きている」の順で割合が高くなっており、「保護者が子どもに身体的・心理的・性的虐待を加えたり、子育てを放棄したりする」では、女性が65.1%で、男性(55.4%)よりも9.7ポイント高くなっています。

年齢別でみると、すべての年齢層で「保護者が子どもに身体的・心理的・性的虐待を加えたり、子育てを放棄したりする」の割合が最も高くなっており、50歳代では次いで「インターネット (パソコン、スマートフォンなど)を使ったいじめが起きている」の割合が高く、それ以外の年齢層では次いで「子ども同士が「暴力」や「仲間はずれ」、「無視」などのいじめをする」の割合が高くなっています。

図表 2-4-3 子どもの人権に関する問題点 他調査結果

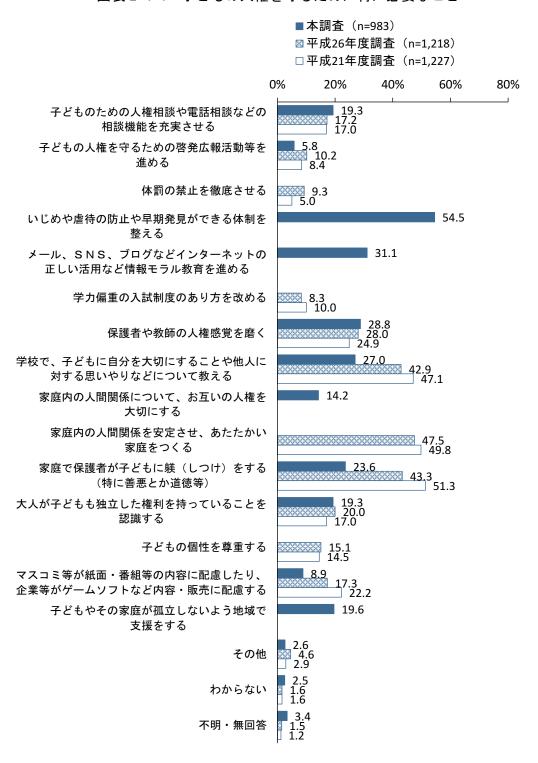


※平成30年度県調査では3つまでの複数回答,平成29年度国調査では複数回答

平成30年度県調査では、「子どもに心理的な虐待を加えたり、子育てを放棄したりすること」が50.2%で最も高く、次いで「子ども同士が「暴力」や「仲間はずれ」、「無視」などのいじめをしたりすること」が39.7%、「インターネットを使ったいじめが起きていること」が35.1%と続いています。

平成 29 年度国調査では、「いじめを受けること」が 66.9%で最も高く、次いで「虐待を受けること」が 62.6%、「いじめ、体罰や虐待を見て見ぬふりをすること」が 52.6%と続いています。

図表 2-4-4 子どもの人権を守るために特に必要なこと



子どもの人権を守るために特に必要なことについては、「いじめや虐待の防止や早期発見がで きる体制を整える」が54.5%で最も高く、次いで「メール、SNS、ブログなどインターネット の正しい活用など情報モラル教育を進める」が 31.1%,「保護者や教師の人権感覚を磨く」が 28.8%と続いています。

図表 2-4-5 子どもの人権を守るために特に必要なこと 性別・年齢別

		n 入	などの相談機能を充実させる子どものための人権相談や電話	啓発広報活動等を進める子どもの人権を守るための	できる体制を整えるいじめや虐待の防止や早期発見	情報モラル教育を進めるインターネットの正しい活用なメール、SNS、ブログなど	保護者や教師の人権感覚を磨く	て教えるとや他人に対する思いやりなど学校で、子どもに自分を大切に	お互いの人権を大切にする家庭内の人間関係について、	をする(特に善悪とか道徳等)家庭で保護者が子どもに躾(し	持っていることを認識する (大人が子どもも独立した権利を 単)	位内容・販売に配慮する。
			相談		が	など		にす つる いこ		つけ)		ト容 なに ど配
	全体	983	19. 3	5. 8	54. 5	31. 1	28. 8	27. 0	14. 2		19. 3	8. 9
性	男性	334	19. 8	6. 3	52. 4	30. 8		31. 4	11. 4	23. 1	15. 6	4. 5
別	女性	637	19. 3	5. 5	56. 0	31. 7	29. 4	25. 0	16. 0	23. 9	21. 2	10. 8
	答えたくない	6	16. 7	0.0	33. 3	16. 7	0.0	0.0	0.0		33. 3	50.0
	10歳代	48	14. 6	2. 1	62. 5	37. 5	25. 0	12. 5	10. 4	12. 5	29. 2	4. 2
	20歳代	92	15. 2	6. 5	44. 6	32. 6	34. 8	18. 5	17. 4	15. 2	26. 1	3. 3
	30歳代	118	15. 3	2. 5	59. 3	31. 4	39. 0	24. 6	16. 1	23. 7	22. 9	7. 6
年齢	40歳代	159	13. 2	5. 0	47. 8	37. 7	28. 3	26. 4	16. 4	25. 2	18. 2	8. 2
別	50歳代	187	16. 6	6. 4	55. 6	38. 0	29. 9	21. 4	13. 4	21. 9	18. 2	13. 4
	60歳代	202	27. 2	8. 4	58. 4	28. 7	27. 2	28. 7	10. 4	22. 8	17. 3	9. 4
	70歳代	115	23. 5	4. 3	56. 5	21. 7	21. 7	40. 0	13. 0	33. 9	16. 5	12. 2
	80歳以上	55	30. 9	7. 3	52. 7	10. 9	18. 2	45. 5	23. 6	29. 1	12. 7	3. 6
		n (人)	域で支援をする子どもやその家庭が孤立し	その他	わからない	不明・無回答						

		n (人)	域で支援をするというでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	その他	わからない	不明・無回答
	全体	983	19. 6	2. 6	2. 5	3. 4
	男性	334	17. 4	2. 4	2. 4	5. 4
性 別	女性	637	20. 6	2. 5	2. 7	2. 0
<i>,,,</i>	答えたくない	6	33. 3	16. 7	0.0	0. 0
	10歳代	48	20. 8	0.0	4. 2	4. 2
	20歳代	92	20. 7	2. 2	5. 4	2. 2
	30歳代	118	21. 2	4. 2	1. 7	3. 4
年齢別	40歳代	159	16. 4	2. 5	2. 5	5. 0
別	50歳代	187	27. 3	3. 7	2. 1	1. 1
	60歳代	202	17. 8	3. 0	1.0	3. 5
	70歳代	115	13. 9	0. 9	4. 3	2. 6
	80歳以上	55	14. 5	0.0	1.8	5. 5

※網掛け■は最も割合が高いもの

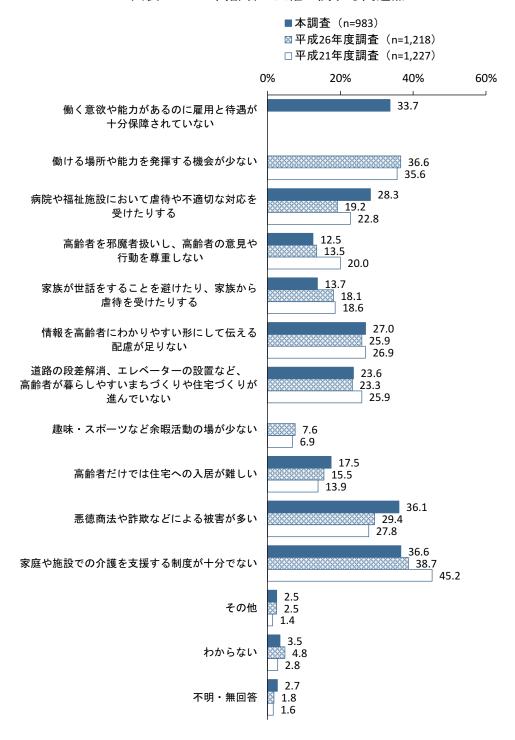
性別でみると、男性・女性いずれも「いじめや虐待の防止や早期発見ができる体制を整える」の割合が最も高くなっており、男性では次いで「学校で、子どもに自分を大切にすることや他人に対する思いやりなどについて教える」の割合が高く、女性では次いで「メール、SNS、ブログなどインターネットの正しい活用など情報モラル教育を進める」の割合が高くなっています。年齢別でみると、すべての年齢層で「いじめや虐待の防止や早期発見ができる体制を整える」の割合が最も高くなっており、10歳代、40歳代、50歳代では次いで「メール、SNS、ブログなどインターネットの正しい活用など情報モラル教育を進める」の割合が高く、20歳代・30歳代では次いで「保護者や教師の人権感覚を磨く」の割合が高く、60歳代では次いで「メール、SNS、ブログなどインターネットの正しい活用など情報モラル教育を進める」「学校で、子どもに自分を大切にすることや他人に対する思いやりなどについて教える」が同率で高く、70歳代以上の年齢層では次いで「学校で、子どもに自分を大切にすることや他人に対する思いやりなどについて教える」の割合が高くなっています。

5. 高齢者の人権について

問 12

高齢者に関することがらで、人権の尊重という点からみて、あなたが特に問題があると思われるのはどのようなことですか。(〇は3つまで)

図表 2-5-1 高齢者の人権に関する問題点



高齢者の人権に関する問題点については、「家庭や施設での介護を支援する制度が十分でない」が36.6%で最も高く、次いで「悪徳商法や詐欺などによる被害が多い」が36.1%、「働く意欲や能力があるのに雇用と待遇が十分保障されていない」が33.7%と続いています。

図表 2-5-2 高齢者の人権に関する問題点 性別・年齢別

(単位:%)

		n (人)	待遇が十分保障されていない働く意欲や能力があるのに雇用と	不適切な対応を受けたりする病院や福祉施設において虐待や	意見や行動を尊重しない高齢者の高齢者を邪魔者扱いし、高齢者の	家族から虐待を受けたりする家族が世話をすることを避けたり、	して伝える配慮が足りない情報を高齢者にわかりやすい形に	りや住宅づくりが進んでいないなど、高齢者が暮らしやすいまちづくなど、高齢者が暮らしやすいまちづく道路の段差解消、エレベーターの設置	難しい	多い悪徳商法や詐欺などによる被害が	制度が十分でない家庭や施設での介護を支援する	その他
	全体	983	33. 7	28. 3	12. 5	13. 7	27. 0	23. 6	17. 5	36. 1	36.6	2. 5
Let	男性	334	37. 7	20. 1	12. 6	13. 2	25. 7	23. 4	15. 6	40. 1	37. 4	3. 6
性別	女性	637	31.6	32. 3	12. 4	14. 0	27. 9	24. 2	18. 4	34. 4	36. 4	1. 9
	答えたくない	6	16. 7	50.0	33. 3	0. 0	16. 7	0.0	50. 0	16. 7	0.0	0.0
	10歳代	48	29. 2	35. 4	22. 9	14. 6	22. 9	14. 6	12. 5	41. 7	35. 4	2. 1
	20歳代	92	25. 0	21. 7	15. 2	16. 3	25. 0	14. 1	8. 7	44. 6	37. 0	2. 2
	30歳代	118	30. 5	31. 4	13. 6	22. 9	25. 4	27. 1	17. 8	38. 1	33. 1	2. 5
年齢	40歳代	159	38. 4	32. 1	11. 9	12. 6	19. 5	16. 4	18. 2	44. 7	42. 1	1. 3
別	50歳代	187	36. 4	26. 7	10. 7	12. 3	31.0	28. 3	17. 1	38. 0	35. 8	3. 2
	60歳代	202	39. 6	28. 7	10. 4	10. 9	28. 7	29. 2	19. 8	28. 2	39.6	2. 0
	70歳代	115	30. 4	25. 2	15. 7	10. 4	30. 4	24. 3	26. 1	28. 7	31.3	3. 5
	80歳以上	55	18. 2	25. 5	7. 3	12. 7	32. 7	25. 5	9. 1	29. 1	30. 9	3. 6
			わか	不明								

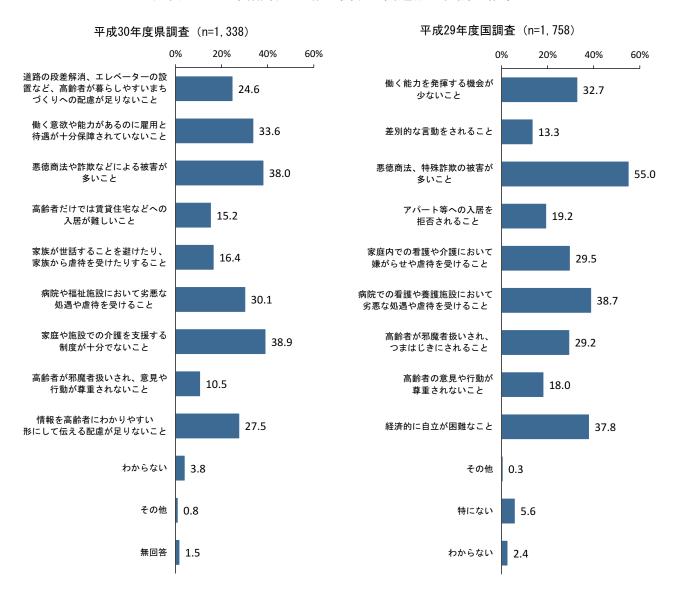
	124-2-			
		n (人)	わからない	不明・無回答
	全体	983	3. 5	2. 7
	男性	334	3. 9	2. 4
性別	女性	637	3. 3	2. 5
,,,,	答えたくない	6	0.0	16. 7
	10歳代	48	4. 2	0.0
	20歳代	92	7. 6	1.1
	30歳代	118	5. 1	0.0
年齢	40歳代	159	1. 9	2. 5
別	50歳代	187	2. 1	3. 2
	60歳代	202	2. 0	4. 0
	70歳代	115	4. 3	2. 6
	80歳以上	55	5. 5	5. 5

※網掛け■は最も割合が高いもの

性別でみると、男性では「悪徳商法や詐欺などによる被害が多い」が 40.1%で最も高く、次いで「働く意欲や能力があるのに雇用と待遇が十分保障されていない」が 37.7%、「家庭や施設での介護を支援する制度が十分でない」が 37.4%と続いており、女性では「家庭や施設での介護を支援する制度が十分でない」が 36.4%で最も高く、次いで「悪徳商法や詐欺などによる被害が多い」が 34.4%、「病院や福祉施設において虐待や不適切な対応を受けたりする」が 32.3%と続いています。

年齢別でみると、10歳代から50歳代では「悪徳商法や詐欺などによる被害が多い」の割合が最も高く、60歳代では「働く意欲や能力があるのに雇用と待遇が十分保障されていない」「家庭や施設での介護を支援する制度が十分でない」が同率で最も高く、70歳代では「家庭や施設での介護を支援する制度が十分でない」の割合が最も高く、80歳以上では「情報を高齢者にわかりやすい形にして伝える配慮が足りない」の割合が最も高くなっています。

図表 2-5-3 高齢者の人権に関する問題点 他調査結果



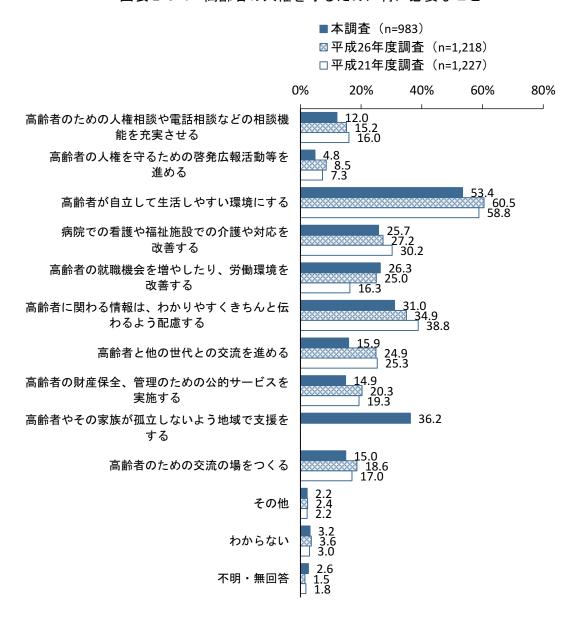
※平成30年度県調査では3つまでの複数回答. 平成29年度国調査では複数回答

平成30年度県調査では、「家庭や施設での介護を支援する制度が十分でないこと」が38.9%で最も高く、次いで「悪徳商法や詐欺などによる被害が多いこと」が38.0%、「働く意欲や能力があるのに雇用と待遇が十分保障されていないこと」が33.6%と続いています。

平成29年度国調査では、「悪徳商法、特殊詐欺の被害が多いこと」が55.0%で最も高く、次いで「病院での看護や養護施設において劣悪な処遇や虐待を受けること」が38.7%、「経済的に自立が困難なこと」が37.8%と続いています。

問 13 あなたは、高齢者の人権を守るために特に必要なことはどのようなことだと思いますか。(Oは3つまで)

図表 2-5-4 高齢者の人権を守るために特に必要なこと



高齢者の人権を守るために特に必要なことについては、「高齢者が自立して生活しやすい環境にする」が53.4%で最も高く、次いで「高齢者やその家族が孤立しないよう地域で支援をする」が36.2%、「高齢者に関わる情報は、わかりやすくきちんと伝わるよう配慮する」が31.0%と続いています。

図表 2-5-5 高齢者の人権を守るために特に必要なこと 性別・年齢別

(単位:%)

		n 入	どの相談機能を充実させる高齢者のための人権相談や電話相談な	動等を進める高齢者の人権を守るための啓発広報活	する。高齢者が自立して生活しやすい環境に	応を改善する 病院での看護や福祉施設での介護や対	環境を改善する高齢者の就職機会を増やしたり、労働	きちんと伝わるよう配慮する高齢者に関わる情報は、わかりやすく	高齢者と他の世代との交流を進める	サービスを実施する高齢者の財産保全、管理のための公的	域で支援をする「場合を持ちます」といいます地域で支援をする。	高齢者のための交流の場をつくる
	全体	983	12. 0	4. 8	53. 4	25. 7	26. 3	31.0	15. 9	14. 9	36. 2	15. 0
Let	男性	334	14. 7	5. 4	50. 6	24. 6	28. 4	23. 4	16. 2	16.8	33. 5	15. 0
性別	女性	637	10.8	4. 6	55. 1	26. 7	25. 3	35. 2	15. 9	14. 0	37. 8	14. 9
	答えたくない	6	0.0	0.0	33. 3	0. 0	16. 7	16. 7	16. 7	16. 7	16. 7	16. 7
	10歳代	48	8. 3	6. 3	47. 9	35. 4	18. 8	16. 7	33. 3	10. 4	20. 8	14. 6
	20歳代	92	10. 9	3. 3	34. 8	23. 9	22. 8	35. 9	21. 7	12. 0	32. 6	14. 1
	30歳代	118	7. 6	5. 1	51. 7	21. 2	32. 2	23. 7	17. 8	10. 2	41.5	17. 8
年齢	40歳代	159	6. 9	2. 5	51.6	29. 6	32. 1	22. 6	18. 2	14. 5	44. 7	20. 1
別	50歳代	187	9. 6	3. 2	58. 3	25. 7	24. 6	33. 2	13. 9	18. 2	40. 1	14. 4
	60歳代	202	15. 8	7. 4	59. 9	26. 7	30. 7	30. 7	12. 9	17. 3	36. 1	9. 4
	70歳代	115	17. 4	3. 5	60. 9	25. 2	22. 6	38. 3	11. 3	20. 0	29. 6	14. 8
	80歳以上	55	25. 5	10. 9	41.8	16. 4	7. 3	56. 4	9. 1	5. 5	21.8	16. 4
			その	わか	不明	•						

		n (人)	その他	わからない	不明・無回答
	全体	983	2. 2	3. 2	2. 6
性別年齢別	男性	334	1. 5	3. 0	3. 0
	女性	637	2. 5	3. 1	2. 4
	答えたくない	6	16. 7	16. 7	0.0
	10歳代	48	0.0	6. 3	2. 1
	20歳代	92	0.0	4. 3	4. 3
	30歳代	118	3. 4	6. 8	1. 7
	40歳代	159	2. 5	1. 9	2. 5
	50歳代	187	3. 7	3. 2	2. 1
	60歳代	202	1. 5	2. 0	2. 0
	70歳代	115	2. 6	1.7	0. 9
	80歳以上	55	1.8	1. 8	7. 3

※網掛け■は最も割合が高いもの

性別でみると、男性・女性いずれも「高齢者が自立して生活しやすい環境にする」の割合が最も高く、次いで「高齢者やその家族が孤立しないよう地域で支援をする」が高くなっており、男性では続いて「高齢者の就職機会を増やしたり、労働環境を改善する」の割合が高く、女性では続いて「高齢者に関わる情報は、わかりやすくきちんと伝わるよう配慮する」の割合が高くなっています。

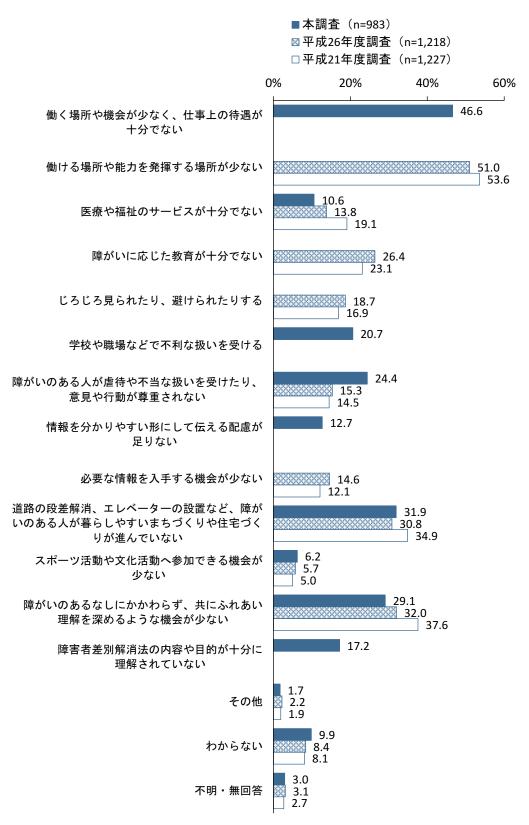
年齢別でみると、10歳代、30歳代から70歳代の年齢層では「高齢者が自立して生活しやすい環境にする」の割合が最も高く、20歳代・80歳以上では「高齢者に関わる情報は、わかりやすくきちんと伝わるよう配慮する」の割合が最も高くなっています。

6. 障がいのある人の人権について

問 14

障がいのある人に関することがらで、人権の尊重という点からみて、あなたが特に問題があると思われるのはどのようなことですか。(Oは3つまで)

図表 2-6-1 障がいのある人の人権に関する問題点



障がいのある人の人権に関する問題点については、「働く場所や機会が少なく、仕事上の待遇が十分でない」が46.6%で最も高く、次いで「道路の段差解消、エレベーターの設置など、障がいのある人が暮らしやすいまちづくりや住宅づくりが進んでいない」が31.9%、「障がいのあるなしにかかわらず、共にふれあい理解を深めるような機会が少ない」が29.1%と続いています。

図表 2-6-2 障がいのある人の人権に関する問題点 性別・年齢別

(単位:%)

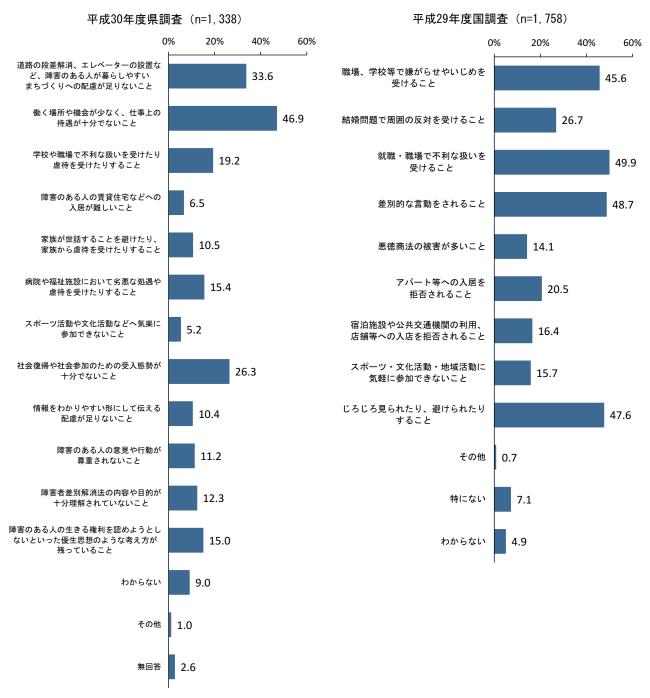
なく い場 でも いっぱ から でき いっぱ から でき いっぱ から でき いっぱ	その他	理解されていた。			*								
男性 334 53.0 6.9 23.7 23.4 14.1 27.8 6.6 26.9 19 25 25 1 12.2 34.4 6.1 30.3 15 25 25 25 25 27 27 1 25 27 27 27 27 27 27 27		ない 「消法の内容や目的が十分に	を深めるような機会が少ないいのあるなしにかかわらず、共にふれあい	いポーツ活動や文化活動へ参加できる機会が少	くりが進んでいないいのある人が暮らしやすいまちづくりや住宅いのある人が暮らしやすいまちづくりや住宅路の段差解消、エレベーターの設置など、障	りない報を分かりやすい形にして伝える配慮が	意見や行動が尊重されないいのある人が虐待や不当な扱いを受けた	や職場などで不利な扱いを受ける	療や福祉のサービスが十分でない	ない、は場所や機会が少なく、仕事上の待遇が十分	(人)	A.44	
女性 637 43.6 12.1 19.5 25.1 12.2 34.4 6.1 30.3 15 15 10歳代 48 47.9 4.2 31.3 35.4 6.3 12.5 2.1 27.1 25 20歳代 30歳代 118 48.3 7.6 26.3 28.0 9.3 32.2 2.5 30.5 15 30歳代 187 48.1 13.9 18.2 20.3 12.3 36.4 8.6 28.9 17 170歳代 115 46.1 10.4 17.4 20.9 15.7 36.5 6.1 27.8 18 14 15 10.9 14.5 21.8 5.5 21.8 14 14 14 15 10.9 14.5 21.8 5.5 21.8 14 14 14 15 10.9 14.5 21.8 5.5 21.8 14 14 15 10.9 14.5 21.8 5.5 21.8 14 14 15 10.9 14.5 21.8 5.5 21.8 14 15 16 16 16 16 16 16 16		17. 2										ı	
別 女性 637 43.0 12.1 19.5 25.1 12.2 34.4 6.1 30.3 13 答えたくない 6 50.0 16.7 0.0 16.7 0.0 0.0 0.0 0.0 33.3 16 10歳代 48 47.9 4.2 31.3 35.4 6.3 12.5 2.1 27.1 25 20歳代 92 45.7 9.8 35.9 33.7 8.7 16.3 7.6 27.2 18 30歳代 118 48.3 7.6 26.3 28.0 9.3 32.2 2.5 30.5 15 40歳代 159 40.9 10.7 19.5 25.8 11.9 30.2 6.9 30.8 15 50歳代 187 48.1 13.9 18.2 20.3 12.3 36.4 8.6 28.9 17 60歳代 202 51.5 9.4 15.3 24.3 17.3 41.1 6.4 31.2 16 70歳代 115 46.1 10.4 17.4 20.9 15.7 36.5 6.1 27.8 18 80歳以上 55 41.8 10.9 14.5 10.9 14.5 21.8 5.5 21.8 14		19. 8											性
10歳代 48 47.9 4.2 31.3 35.4 6.3 12.5 2.1 27.1 25 20歳代 92 45.7 9.8 35.9 33.7 8.7 16.3 7.6 27.2 18 30歳代 118 48.3 7.6 26.3 28.0 9.3 32.2 2.5 30.5 15 40歳代 159 40.9 10.7 19.5 25.8 11.9 30.2 6.9 30.8 15 50歳代 187 48.1 13.9 18.2 20.3 12.3 36.4 8.6 28.9 17 60歳代 202 51.5 9.4 15.3 24.3 17.3 41.1 6.4 31.2 16 70歳代 115 46.1 10.4 17.4 20.9 15.7 36.5 6.1 27.8 18 80歳以上 55 41.8 10.9 14.5 10.9 14.5 21.8 5.5 21.8 14 14 14.5		15. 5											
年齢別	+	16. 7											
30歳代 118 48.3 7.6 26.3 28.0 9.3 32.2 2.5 30.5 15 40歳代 159 40.9 10.7 19.5 25.8 11.9 30.2 6.9 30.8 15 50歳代 187 48.1 13.9 18.2 20.3 12.3 36.4 8.6 28.9 17 60歳代 202 51.5 9.4 15.3 24.3 17.3 41.1 6.4 31.2 16 70歳代 115 46.1 10.4 17.4 20.9 15.7 36.5 6.1 27.8 18 80歳以上 55 41.8 10.9 14.5 10.9 14.5 21.8 5.5 21.8 14													
年齢別		18. 5											
187 48.1 13.9 18.2 20.3 12.3 36.4 8.6 28.9 17 60歳代 202 51.5 9.4 15.3 24.3 17.3 41.1 6.4 31.2 16 70歳代 115 46.1 10.4 17.4 20.9 15.7 36.5 6.1 27.8 18 80歳以上 55 41.8 10.9 14.5 10.9 14.5 21.8 5.5 21.8 14 14 14 15 15 15 15 14 15 15		15. 3 15. 7											在
60歳代 202 51.5 9.4 15.3 24.3 17.3 41.1 6.4 31.2 16 70歳代 115 46.1 10.4 17.4 20.9 15.7 36.5 6.1 27.8 18 80歳以上 55 41.8 10.9 14.5 10.9 14.5 21.8 5.5 21.8 14 14 14 15 15 15 16 16 16 16 16													齢
70歳代 115 46.1 10.4 17.4 20.9 15.7 36.5 6.1 27.8 18 80歳以上 55 41.8 10.9 14.5 10.9 14.5 21.8 5.5 21.8 14 か か ら ない 回答		16. 3											別
80歳以上 55 41.8 10.9 14.5 10.9 14.5 21.8 5.5 21.8 14 かららない 無 回答		18. 3											
わからない 無回答													
									無回	らな	$\widehat{}$		
全体 983 9.9 3.0									3. 0		983		
男性 334 9.3 3.0 性 5 th 637 10.2 3.7												男性	性
別									2 7	1 10 2			別
												·	別
									0. 0	16. 7	6	答えたくない	崩
									0. 0 4. 2	16. 7 12. 5	6 48	答えたくない 10歳代	別
									0. 0 4. 2 1. 1	16. 7 12. 5 5. 4	6 48 92	答えたくない 10歳代 20歳代	崩
節									0. 0 4. 2 1. 1 2. 5	16. 7 12. 5 5. 4 11. 0	6 48 92 118	答えたくない 10歳代 20歳代 30歳代	別
別 50歳代 187 10.7 2.1									0. 0 4. 2 1. 1 2. 5 2. 5	16. 7 12. 5 5. 4 11. 0 11. 3	6 48 92 118 159	答えたくない 10歳代 20歳代 30歳代 40歳代	別 年齢
									0. 0 4. 2 1. 1 2. 5 2. 5 2. 1	16. 7 12. 5 5. 4 11. 0 11. 3 10. 7	6 48 92 118 159	答えたくない 10歳代 20歳代 30歳代 40歳代 50歳代	別 年齢
115 10.4 0.6									0. 0 4. 2 1. 1 2. 5 2. 5 2. 1 1. 5	16. 7 12. 5 5. 4 11. 0 11. 3 10. 7 8. 9	6 48 92 118 159	答えたくない 10歳代 20歳代 30歳代 40歳代 50歳代	別 年齢
80歳以上 55 9.1 12.7									0. 0 4. 2 1. 1 2. 5 2. 5 2. 1 1. 5 2. 6	16. 7 12. 5 5. 4 11. 0 11. 3 10. 7 8. 9 10. 4	6 48 92 118 159 187 202 115	答えたくない 10歳代 20歳代 30歳代 40歳代 50歳代 60歳代	別 年齢

※網掛け■は最も割合が高いもの

性別でみると、男性・女性いずれも「働く場所や機会が少なく、仕事上の待遇が十分でない」の割合が最も高く、次いで「道路の段差解消、エレベーターの設置など、障がいのある人が暮らしやすいまちづくりや住宅づくりが進んでいない」、「障がいのあるなしにかかわらず、共にふれあい理解を深めるような機会が少ない」の順で割合が高くなっており、「働く場所や機会が少なく、仕事上の待遇が十分でない」では、男性が53.0%で、女性(43.6%)よりも9.4 ポイント高くなっています。

年齢別でみると、すべての年齢層で「働く場所や機会が少なく、仕事上の待遇が十分でない」の割合が最も高くなっており、10歳代では次いで「障がいのある人が虐待や不当な扱いを受けたり、意見や行動が尊重されない」の割合が高く、20歳代では次いで「学校や職場などで不利な扱いを受ける」の割合が高く、30歳代、50歳代から70歳代の年齢層では次いで「道路の段差解消、エレベーターの設置など、障がいのある人が暮らしやすいまちづくりや住宅づくりが進んでいない」の割合が高く、40歳代では次いで「障がいのあるなしにかかわらず、共にふれあい理解を深めるような機会が少ない」の割合が高く、80歳以上では次いで「道路の段差解消、エレベーターの設置など、障がいのある人が暮らしやすいまちづくりや住宅づくりが進んでいない」「障がいのあるなしにかかわらず、共にふれあい理解を深めるような機会が少ない」が同率で高くなっています。

図表 2-6-3 障がいのある人の人権に関する問題点 他調査結果



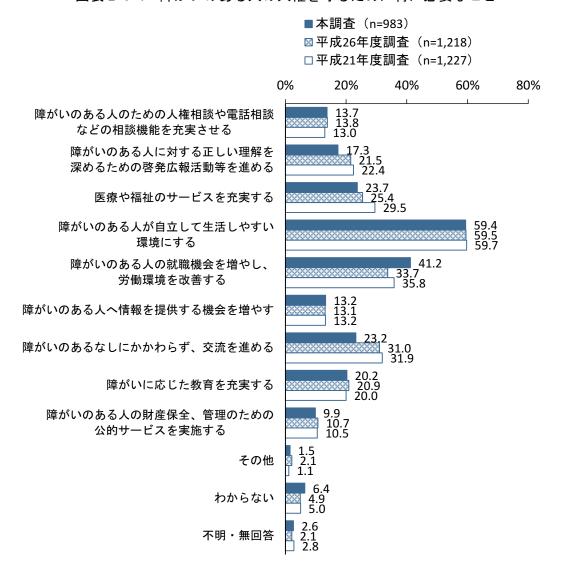
※平成30年度県調査では3つまでの複数回答,平成29年度国調査では複数回答

平成30年度県調査では、「働く場所や機会が少なく、仕事上の待遇が十分でないこと」が46.9%で最も高く、次いで「道路の段差解消、エレベーターの設置など、障害のある人が暮らしやすいまちづくりへの配慮が足りないこと」が33.6%、「社会復帰や社会参加のための受入態勢が十分でないこと」が26.3%と続いています。

平成29年度国調査では、「就職・職場で不利な扱いを受けること」が49.9%で最も高く、次いで「差別的な言動をされること」が48.7%、「じろじろ見られたり、避けられたりすること」が47.6%と続いています。

あなたは、障がいのある人の人権を守るために必要なことはどのようなことだと思いますか。(Oは3つまで)

図表 2-6-4 障がいのある人の人権を守るために特に必要なこと



障がいのある人の人権を守るために特に必要なことについては、「障がいのある人が自立して 生活しやすい環境にする」が 59.4%で最も高く、次いで「障がいのある人の就職機会を増やし、 労働環境を改善する」が 41.2%、「医療や福祉のサービスを充実する」が 23.7%と続いています。

平成 26 年度調査と比較すると、「障がいのある人の就職機会を増やし、労働環境を改善する」 (41.2%) では、平成 26 年度調査 (33.7%) より 7.5 ポイント高く、最も増加した項目となっており、「障がいのあるなしにかかわらず、交流を進める」(23.2%)では、平成 26 年度調査 (31.0%) より 7.8 ポイント低く、最も減少した項目となっています。

図表 2-6-5 障がいのある人の人権を守るために特に必要なこと 性別・年齢別

(単位:%)

		n (人)	充実させる電話相談などの相談機能を障がいのある人のための人権相談や	を進めるを進めるための啓発広報活動等理解を深めるための啓発広報活動等障がいのある人に対する正しい	医療や福祉のサービスを充実する	しやすい環境にする障がいのある人が自立して生活	増やし、労働環境を改善する障がいのある人の就職機会を	機会を増やす障がいのある人へ情報を提供する	交流を進める。	障がいに応じた教育を充実する	ための公的サービスを実施する障がいのある人の財産保全、管理の	位: %) そ の 他
	全体	983	13. 7	17. 3	23. 7	59. 4	41. 2	13. 2	23. 2	20. 2	9. 9	1. 5
性別	男性	334	16. 5	18. 3	23. 7	54. 5	44. 9	14. 4	17. 7	18. 9	10. 2	1. 5
	女性	637	12. 6	17. 0	23. 5	62. 5	39. 7	12. 9	26. 4	20. 9	9. 6	1. 6
	答えたくない	6	0.0	16. 7	33. 3	33. 3	16. 7	0.0	0.0	16. 7	16. 7	0.0
年齡別	10歳代	48	4. 2	20. 8	18. 8	45. 8	31. 3	8. 3	27. 1	16. 7	2. 1	2. 1
	20歳代	92	9. 8	26. 1	16. 3	43. 5	44. 6	15. 2	23. 9	26. 1	12. 0	2. 2
	30歳代	118	7. 6	13. 6	24. 6	61. 9	49. 2	11. 9	28. 8	24. 6	7. 6	0.8
	40歳代	159	9. 4	11. 3	20. 8	60. 4	41.5	11. 3	25. 2	26. 4	9. 4	3. 8
	50歳代	187	8. 6	16. 6	24. 1	63. 1	44. 9	14. 4	27. 3	16. 6	12. 3	1. 1
	60歳代	202	17. 8	17. 8	24. 3	69. 3	42. 6	17. 3	18. 8	19. 3	9. 9	1. 0
	70歳代	115	25. 2	20. 0	27. 0	57. 4	35. 7	13. 0	14. 8	16. 5	12. 2	0. 9
	80歳以上	55	34. 5	21.8	34. 5	47. 3	23. 6	5. 5	20. 0	9. 1	5. 5	0.0
			ゎ	不								

		n (人)	わからない	不明・無回答
	全体	983	6. 4	2. 6
Lat	男性	334	6. 0	3. 3
性 別	女性	637	6. 4	2. 0
	答えたくない	6	33. 3	0.0
	10歳代	48	18. 8	6. 3
	20歳代	92	3. 3	1.1
	30歳代	118	7. 6	0.8
年齢	40歳代	159	4. 4	2. 5
齢 別	50歳代	187	8. 6	1.6
	60歳代	202	5. 0	2. 0
	70歳代	115	7. 0	1. 7
	80歳以上	55	1. 8	10. 9

※網掛け■は最も割合が高いもの

性別でみると、男性・女性いずれも「障がいのある人が自立して生活しやすい環境にする」の割合が最も高く、次いで「障がいのある人の就職機会を増やし、労働環境を改善する」の割合が高くなっており、男性では続いて「医療や福祉のサービスを充実する」の割合が高く、女性では続いて「障がいのあるなしにかかわらず、交流を進める」の割合が高くなっています。

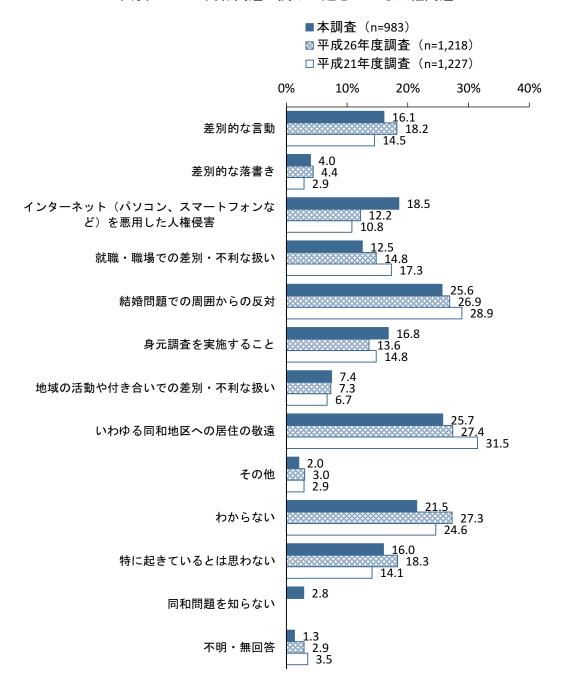
年齢別でみると、20歳代では「障がいのある人の就職機会を増やし、労働環境を改善する」の割合が最も高く、それ以外の年齢層では「障がいのある人が自立して生活しやすい環境にする」の割合が最も高くなっています。

7. 同和問題(部落差別)について

問 16

同和問題(部落差別)に関して、あなたは、今、どのような人権問題が起きていると思いますか。(Oは3つまで)

図表 2-7-1 同和問題に関して起きている人権問題



同和問題に関して起きている人権問題については、「いわゆる同和地区への居住の敬遠」が25.7%で最も高く、次いで「結婚問題での周囲からの反対」が25.6%、「わからない」が21.5%と続いています。

図表 2-7-2 同和問題に関して起きている人権問題 性別・年齢別

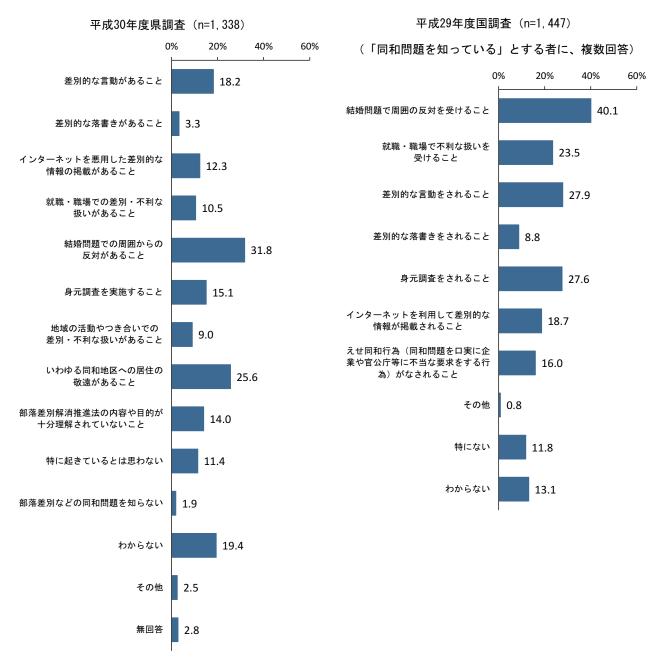
	全体	n (人)	差別的な言動	差別的な落書き	ど)を悪用した人権侵害インターネット(パソコン、スマートフォンな 18.5	就職・職場での差別・不利な扱い 12.5	結婚問題での周囲からの反対	身元調査を実施すること	地域の活動や付き合いでの差別・不利な扱い	いわゆる同和地区への居住の敬遠	その他	位:%) わからない
	男性	983 334	16. 1 19. 2	4. 0 6. 0	20. 7	13. 2		16. 8 19. 2		25. 7 26. 3	1.8	21. 5 15. 9
性別	女性	637	14. 6	3. 0	17. 6	12. 1	27. 6	15. 7	7. 0	25. 7	2. 2	24. 5
別	答えたくない	6	16. 7	0. 0	0.0	0. 0		16. 7	0.0	16. 7	0.0	33. 3
	10歳代	48	29. 2	6. 3	20. 8	29. 2	22. 9	14. 6	18. 8	4. 2		14. 6
	20歳代	92	27. 2	6. 5	25. 0	16. 3		10. 9	14. 1	17. 4		17. 4
	30歳代	118	16. 9	2. 5	21. 2	8. 5	30. 5	17. 8	9. 3	28. 0	2. 5	23. 7
年齢	40歳代	159	12. 6	3. 1	20.8	11. 3	26. 4	17. 0	11. 3	29. 6	0.0	20. 8
別	50歳代	187	16. 0	3. 7	19. 8	10. 7	28. 9	17. 6	5. 9	30. 5	4. 8	25. 7
	60歳代	202	14. 9	4. 5	16.8	12. 4	27. 7	19. 8	3. 0	30. 7	2. 0	17. 8
	70歳代	115	9. 6	4. 3	10. 4	11. 3	19. 1	17. 4	1. 7	23. 5	2. 6	31. 3
	80歳以上	55	12. 7	1. 8	10. 9	9. 1	18. 2	12. 7	3. 6	16. 4	0.0	12. 7
		n (人)	特に起きているとは思わない	同和問題を知らない	不明・無回答							
	全体	983	16.0	2. 8	1. 3							
性	男性	334	18. 9	2. 1	2. 1							
別	女性	637	14. 4	3. 3	0.6							
	答えたくない	6	16. 7	0.0	0.0							
	10歳代	48	12. 5	14. 6	0.0							
	20歳代	92	10.9	9.8	0.0							
年	30歳代	118	11.9	1.7	0.8							
齢	40歳代	159	16. 4	1.9	1.3							
別	50歳代	187	12. 8	0.0	0. 5							
	60歳代	202	20. 3	0. 5	0. 5							
	70歳代	115	20. 0	2. 6	1. 7							
	80歳以上	55	21.8	5. 5	7. 3							

※網掛け■は最も割合が高いもの

性別でみると、男性では「いわゆる同和地区への居住の敬遠」が26.3%で最も高く、次いで「結婚問題での周囲からの反対」が21.9%、「インターネット(パソコン、スマートフォンなど)を悪用した人権侵害」が20.7%と続いており、女性では「結婚問題での周囲からの反対」が27.6%で最も高く、次いで「いわゆる同和地区への居住の敬遠」が25.7%、「わからない」が24.5%と続いています。

年齢別でみると、10歳代では「差別的な言動」「就職・職場での差別・不利な扱い」が同率で最も高く、20歳代では「差別的な言動」の割合が最も高く、30歳代では「結婚問題での周囲からの反対」の割合が最も高く、40歳代から60歳代の年齢層では「いわゆる同和地区への居住の敬遠」の割合が最も高く、70歳代では「わからない」の割合が最も高く、80歳以上では「特に起きているとは思わない」の割合が最も高くなっています。

図表 2-7-3 同和問題に関して起きている人権問題 他調査結果



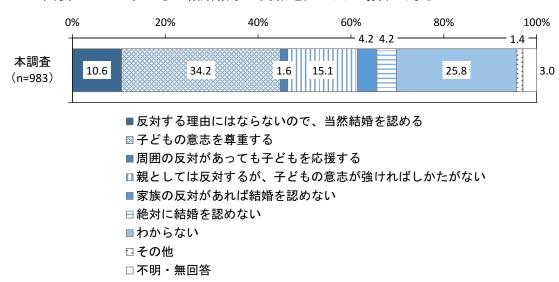
※平成30年度県調査では3つまでの複数回答,平成29年度国調査では複数回答

平成30年度県調査では、「結婚問題での周囲からの反対があること」が31.8%で最も高く、次いで「いわゆる同和地区への居住の敬遠があること」が25.6%、「わからない」が19.4%と続いています。

平成29年度国調査では、「結婚問題で周囲の反対を受けること」が40.1%で最も高く、次いで「差別的な言動をされること」が27.9%、「身元調査をされること」が27.6%と続いています。

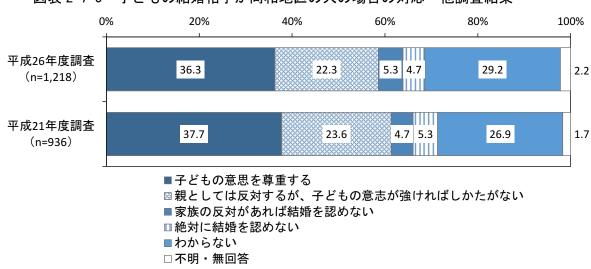
問 17 あなたのお子さんが結婚しようとする相手が、同和地区の人であるとわかった場合、あなたはどうしますか。(Oは 1 つだけ)

図表 2-7-4 子どもの結婚相手が同和地区の人の場合の対応



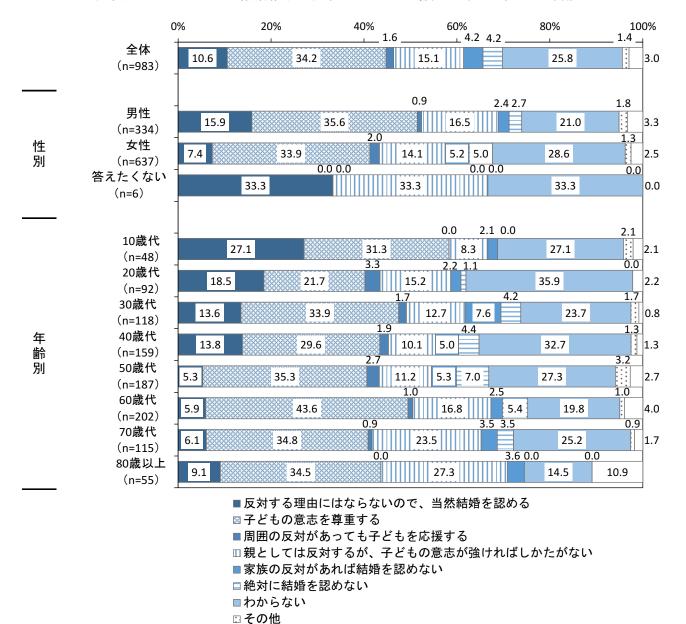
子どもの結婚相手が同和地区の人の場合の対応については、「子どもの意志を尊重する」が34.2%で最も高く、次いで「わからない」が25.8%、「親としては反対するが、子どもの意志が強ければしかたがない」が15.1%と続いています。

図表 2-7-5 子どもの結婚相手が同和地区の人の場合の対応 他調査結果



※平成21年度調査については「結婚している人」のみ回答

図表 2-7-6 子どもの結婚相手が同和地区の人の場合の対応 性別・年齢別

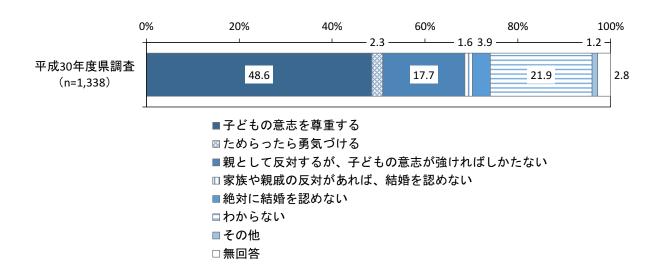


性別でみると、男性・女性いずれも「子どもの意志を尊重する」の割合が最も高く、次いで「わからない」の割合が高くなっており、「わからない」では、女性が28.6%で、男性(21.0%)よりも7.6ポイント高くなっています。

□不明・無回答

年齢別でみると、10歳代、30歳代、50歳代以上の年齢層で「子どもの意志を尊重する」の割合が最も高く、20歳代・40歳代では「わからない」の割合が最も高くなっています。

図表 2-7-7 子どもの結婚相手が同和地区の人の場合の対応 平成 30 年度県調査

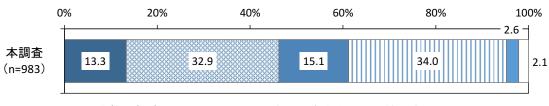


平成30年度県調査では、「子どもの意志を尊重する」が48.6%で最も高く、次いで「わからない」が21.9%、「親として反対するが、子どもの意志が強ければしかたない」が17.7%と続いています。

問 18

あなたが同和地区の人と、結婚しようとしたとき、家族や親戚から強い反対を 受けたら、あなたはどうしますか。(Oは 1 つだけ)

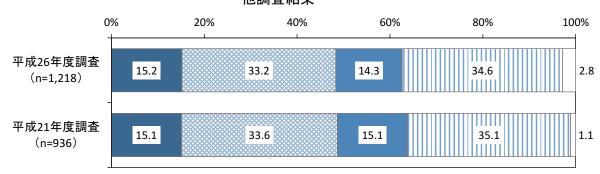
図表 2-7-8 同和地区の人と結婚しようとした際に家族から反対を受けたときの対応



- ■家族や親戚の反対に関係なく、自分の意志を貫いて結婚する
- 図説得に全力を傾け、できるだけ理解を得て、自分の意志を貫いて結婚する
- ■家族や親戚の反対があれば結婚しない
- □わからない
- ■その他
- □不明・無回答

同和地区の人と結婚しようとした際に家族から反対を受けたときの対応については、「わからない」が34.0%で最も高く、次いで「説得に全力を傾け、できるだけ理解を得て、自分の意志を貫いて結婚する」が32.9%、「家族や親戚の反対があれば結婚しない」が15.1%と続いています。

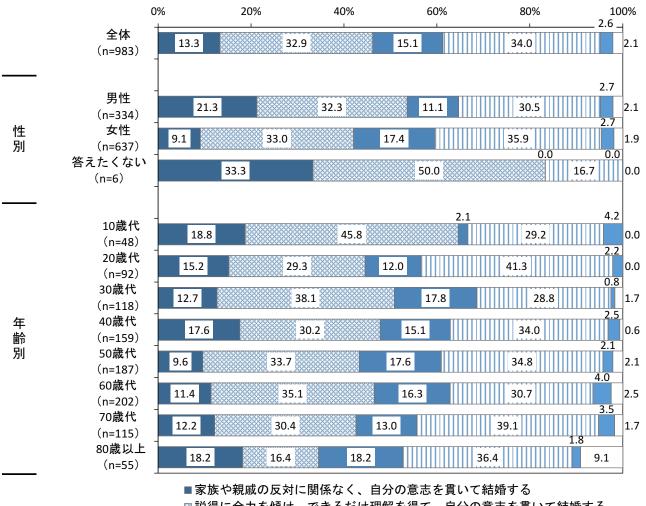
図表 2-7-9 同和地区の人と結婚しようとした際に家族から反対を受けたときの対応 他調査結果



- ■自分の意志を貫いて結婚する
- 図説得に全力を傾け、できるだけ理解を得て、自分の意志を貫いて結婚する
- ■家族や親戚の反対があれば結婚しない
- □わからない
- □不明・無回答

※平成21年度調査については「結婚している人」のみ回答

図表 2-7-10 同和地区の人と結婚しようとした際に家族から反対を受けたときの対応 性別 • 年齢別



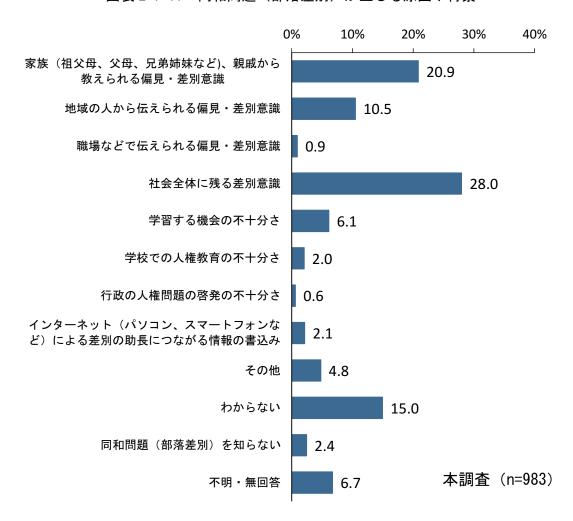
- 図説得に全力を傾け、できるだけ理解を得て、自分の意志を貫いて結婚する
- ■家族や親戚の反対があれば結婚しない
- □わからない
- ■その他
- □不明・無回答

性別でみると、男性では「説得に全力を傾け、できるだけ理解を得て、自分の意志を貫いて結 婚する」が32.3%で最も高く、女性では「わからない」が35.9%で最も高くなっています。

年齢別でみると、10歳代、30歳代、60歳代では「説得に全力を傾け、できるだけ理解を得て、 自分の意志を貫いて結婚する」の割合が最も高く、それ以外の年齢層では「わからない」の割合 が最も高くなっています。

問 19 同和問題(部落差別)が生じる原因や背景として、あなたが一番思い当たるのは次のどれですか。(Oは1つだけ)

図表 2-7-11 同和問題(部落差別)が生じる原因や背景



同和問題(部落差別)が生じる原因や背景については、「社会全体に残る差別意識」が28.0%で最も高く、次いで「家族(祖父母、父母、兄弟姉妹など)、親戚から教えられる偏見・差別意識」が20.9%、「わからない」が15.0%と続いています。

図表 2-7-12 同和問題(部落差別)が生じる原因や背景 性別・年齢別

		n (人)	差別意識ど)、親戚から教えられる偏見・ど)、親戚から教えられる偏見・家族(祖父母、父母、兄弟姉妹な	差別意識地域の人から伝えられる偏見・	差別意識職場などで伝えられる偏見・	社会全体に残る差別意識	学習する機会の不十分さ	学校での人権教育の不十分さ	行政の人権問題の啓発の不十分さ	がる情報の書込みフォンなど)による差別の助長につなインターネット(パソコン、スマート	(単 そ の 他	わからない
	全体	983	20. 9	10. 5	0. 9	28. 0	6. 1	2. 0	0. 6	2. 1	4. 8	15. 0
Let.	男性	334	16. 5	14. 1	1.8	30. 5	3. 9	1.8	0. 6	2. 4	4. 8	13. 5
性別	女性	637	23. 2	8. 6	0. 5	26. 8	7. 2	1. 9	0. 6	2. 0	4. 7	15. 9
	答えたくない	6	0.0	16. 7	0.0	16. 7	16. 7	16. 7	0.0	0.0	16. 7	16. 7
	10歳代	48	10. 4	4. 2	0.0	35. 4	10. 4	2. 1	0.0	0.0	4. 2	10. 4
	20歳代	92	26. 1	5. 4	2. 2	21. 7	4. 3	1.1	0.0	2. 2	2. 2	20. 7
	30歳代	118	31.4	9. 3	1. 7	16. 9	10. 2	2. 5	0.8	3. 4	3. 4	14. 4
年齢	40歳代	159	17. 6	15. 1	0. 6	27. 7	3. 1	0.0	1. 3	4. 4	4. 4	13. 8
別	50歳代	187	21. 9	13. 4	1.1	24. 1	7. 0	1. 6	0. 5	2. 7	9. 1	12. 8
	60歳代	202	19. 3	8. 4	0.0	34. 2	6. 4	4. 5	0. 5	1.5	5. 9	13. 9
	70歳代	115	17. 4	7. 0	1.7	36. 5	5. 2	1. 7	0. 0	0.0	1.7	20. 9
	80歳以上	55	16. 4	20. 0	0.0	30. 9	3. 6	0.0	1. 8	0.0	1.8	14. 5
			同 和	不明								

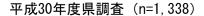
		n (人)	同和問題(部落差別)を知らない	不明・無回答
	全体	983	2. 4	6. 7
	男性	334	2. 4	7. 8
性 別	女性	637	2. 5	6. 0
	答えたくない	6	0.0	0.0
	10歳代	48	16. 7	6. 3
	20歳代	92	5. 4	8. 7
	30歳代	118	1. 7	4. 2
年 齢 別	40歳代	159	1. 9	10. 1
別	50歳代	187	0. 5	5. 3
	60歳代	202	0. 5	5. 0
	70歳代	115	2. 6	5. 2
	80歳以上	55	1.8	9. 1

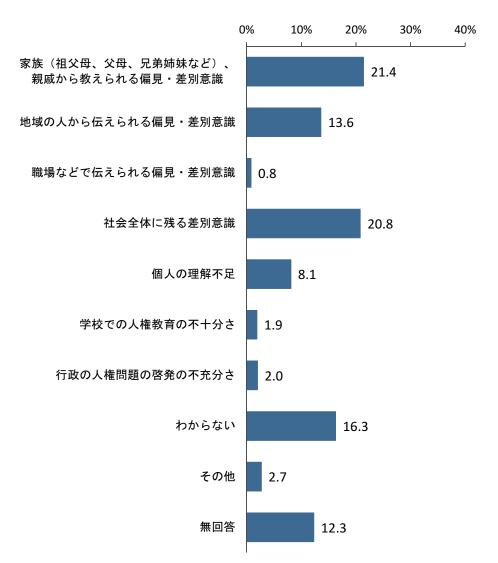
※網掛け■は最も割合が高いもの

性別でみると、男性・女性いずれも「社会全体に残る差別意識」の割合が最も高く、次いで「家族(祖父母、父母、兄弟姉妹など)、親戚から教えられる偏見・差別意識」が高くなっており、男性では続いて「地域の人から伝えられる偏見・差別意識」が高く、女性では続いて「わからない」が高くなっています。

年齢別でみると、20歳代・30歳代では「家族(祖父母、父母、兄弟姉妹など)、親戚から教えられる偏見・差別意識」の割合が最も高く、それ以外の年齢層では「社会全体に残る差別意識」の割合が最も高くなっています。

図表 2-7-13 同和問題(部落差別)が生じる原因や背景 平成 30 年度県調査





平成30年度県調査では、「家族(祖父母、父母、兄弟姉妹など)、親戚から教えられる偏見・差別意識」が21.4%で最も高く、次いで「社会全体に残る差別意識」が20.8%、「わからない」が16.3%と続いています。

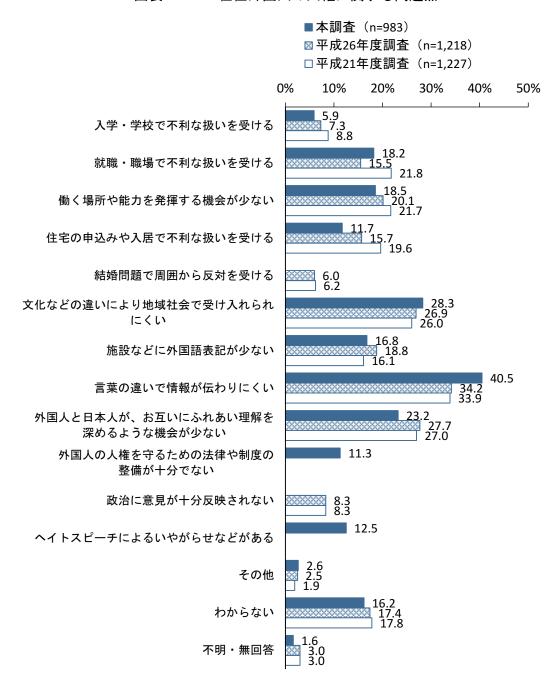
8. 外国人の人権について

問 20

日本に居住している外国人に関することがらで、人権の尊重という点からみて、 あなたが特に問題があると思われるのはどのようなことですか。

(Oは3つまで)

図表 2-8-1 在住外国人の人権に関する問題点



在住外国人の人権に関する問題点については、「言葉の違いで情報が伝わりにくい」が 40.5% で最も高く、次いで「文化などの違いにより地域社会で受け入れられにくい」が 28.3%、「外国人と日本人が、お互いにふれあい理解を深めるような機会が少ない」が 23.2%と続いています。

図表 2-8-2 在住外国人の人権に関する問題点 性別・年齢別

		n (人)	入学・学校で不利な扱いを受ける	就職・職場で不利な扱いを受ける	少ない働く場所や能力を発揮する機会が	ける 住宅の申込みや入居で不利な扱いを受	受け入れられにくい文化などの違いにより地域社会で	施設などに外国語表記が少ない	言葉の違いで情報が伝わりにくい	理解を深めるような機会が少ない外国人と日本人が、お互いにふれあい	制度の整備が十分でない外国人の人権を守るための法律や	位 などがある
	全体	983	5. 9	18. 2	18. 5	11. 7	28. 3	16. 8	40. 5	23. 2	11. 3	12. 5
Let	男性	334	7. 5	20. 7	21.0	11. 4	33. 5	14. 4	40. 7	22. 2	12. 3	13. 2
性別	女性	637	5. 2	17. 0	17. 4	11. 8	25. 6	18. 2	40. 5	23. 9	10. 7	12. 1
	答えたくない	6	0.0	16. 7	0. 0	16. 7	0. 0	16. 7	50. 0	16. 7	16. 7	16. 7
	10歳代	48	14. 6	31. 3	22. 9	12. 5	35. 4	25. 0	18. 8	10. 4	27. 1	12. 5
	20歳代	92	6. 5	25. 0	16. 3	10. 9	34. 8	20. 7	33. 7	15. 2	9. 8	16. 3
	30歳代	118	10. 2	24. 6	25. 4	9. 3	28. 0	11. 9	42. 4	28. 8	6. 8	11. 0
年齢	40歳代	159	3. 8	15. 1	15. 7	14. 5	27. 7	16. 4	39. 0	20. 8	9. 4	13. 2
別	50歳代	187	4. 8	20. 3	19. 3	12. 3	25. 1	18. 2	43. 3	22. 5	9. 6	13. 9
	60歳代	202	4. 5	14. 9	19. 8	11. 4	28. 7	21.8	47. 5	28. 2	13. 4	16. 3
	70歳代	115	4. 3	13. 9	18. 3	10. 4	27. 8	10. 4	44. 3	22. 6	12. 2	6. 1
	80歳以上	55	7. 3	5. 5	3. 6	9. 1	20. 0	7. 3	30. 9	29. 1	10. 9	1. 8
			その	わか	不明	•						

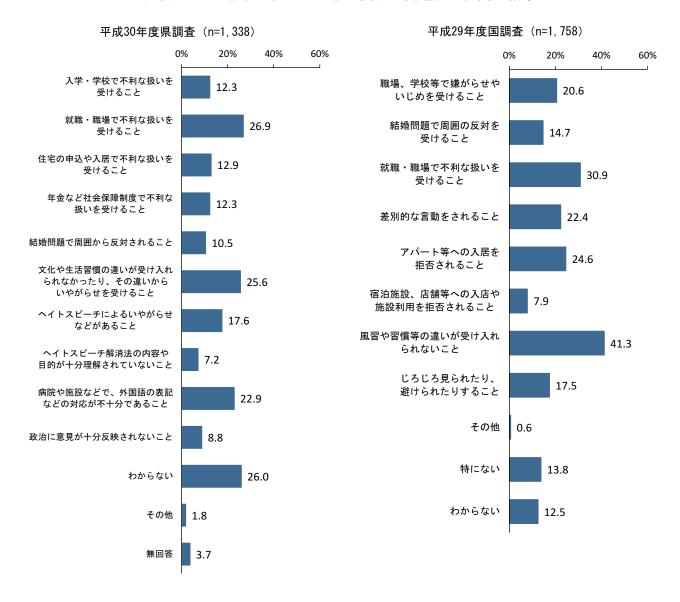
		n (人)	その他	わからない	不明・無回答
	全体	983	2. 6	16. 2	1. 6
Lat	男性	334	3. 6	11. 1	3. 0
性 別	女性	637	2. 2	18. 8	0.8
	答えたくない	6	0.0	16. 7	0.0
	10歳代	48	0.0	8. 3	0.0
	20歳代	92	1. 1	12. 0	1. 1
	30歳代	118	1. 7	13. 6	1.7
年 齢 別	40歳代	159	3. 1	18. 9	0.0
別	50歳代	187	4. 3	16. 0	1.1
	60歳代	202	2. 5	12. 4	0. 5
	70歳代	115	3. 5	21. 7	5. 2
	80歳以上	55	1.8	32. 7	3. 6

※網掛け■は最も割合が高いもの

性別でみると、男性・女性いずれも「言葉の違いで情報が伝わりにくい」の割合が最も高く、次いで「文化などの違いにより地域社会で受け入れられにくい」、「外国人と日本人が、お互いに ふれあい理解を深めるような機会が少ない」の順で割合が高くなっています。

年齢別でみると、10歳代・20歳代では「文化などの違いにより地域社会で受け入れられにくい」の割合が最も高く、30歳代から70歳代の年齢層では「言葉の違いで情報が伝わりにくい」の割合が最も高く、80歳以上では「わからない」の割合が最も高くなっています。

図表 2-8-3 在住外国人の人権に関する問題点 他調査結果

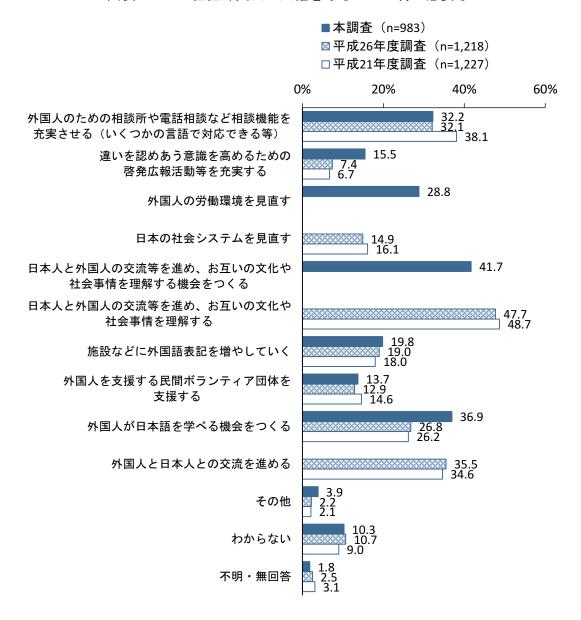


※平成30年度県調査では3つまでの複数回答. 平成29年度国調査では複数回答

平成30年度県調査では、「就職・職場で不利な扱いを受けること」が26.9%で最も高く、次いで「わからない」が26.0%、「文化や生活習慣の違いが受け入れられなかったり、その違いからいやがらせを受けること」が25.6%と続いています。

平成 29 年度国調査では、「風習や習慣等の違いが受け入れられないこと」が 41.3%で最も高く、次いで「就職・職場で不利な扱いを受けること」が 30.9%、「アパート等への入居を拒否されること」が 24.6%と続いています。

図表 2-8-4 在住外国人の人権を守るために特に必要なこと



在住外国人の人権を守るために特に必要なことについては、「日本人と外国人の交流等を進め、 お互いの文化や社会事情を理解する機会をつくる」が41.7%で最も高く、次いで「外国人が日本 語を学べる機会をつくる」が36.9%、「外国人のための相談所や電話相談など相談機能を充実さ せる(いくつかの言語で対応できる等)」が32.2%と続いています。

図表 2-8-5 在住外国人の人権を守るために特に必要なこと 性別・年齢別

		n (人)	語で対応できる等)相談機能を充実させる(いくつかの言外国人のための相談所や電話相談など	発広報活動等を充実する違いを認めあう意識を高めるための啓	外国人の労働環境を見直す	理解する機会をつくるお互いの文化や社会事情を日本人と外国人の交流等を進め、	増やしていく施設などに外国語表記を	体を支援する民間ボランティア団外国人を支援する民間ボランティア団	つくる 外国人が日本語を学べる機会を	その他	わからない	位:%)
	全体	983	32. 2	15. 5	28. 8	41. 7	19. 8	13. 7	36. 9	3. 9	10. 3	1. 8
	男性	334	31.7	15. 0	30. 5	38. 6	19. 5	12. 0	41. 3	5. 1	7. 8	3. 3
性別	女性	637	32. 7	15. 7	28. 3	43. 5	20. 1	14. 8	34. 9	3. 1	11. 5	0. 9
,,,,	答えたくない	6	16. 7	0.0	0.0	33. 3	16. 7	16. 7	33. 3	16. 7	16. 7	0.0
	10歳代	48	10. 4	22. 9	35. 4	35. 4	33. 3	12. 5	35. 4	4. 2	6. 3	0. 0
	20歳代	92	9. 8	20. 7	39. 1	35. 9	25. 0	8. 7	33. 7	1.1	12. 0	1. 1
	30歳代	118	25. 4	16. 1	34. 7	50.8	17. 8	6.8	34. 7	2. 5	13. 6	0. 8
年齢	40歳代	159	30. 8	12. 6	25. 8	41.5	19. 5	15. 1	37. 1	6. 3	10. 1	0. 6
別	50歳代	187	34. 2	15. 0	29. 4	40. 6	19. 8	17. 1	34. 2	4. 3	9. 1	1. 6
	60歳代	202	44. 6	13. 9	28. 2	42. 6	22. 8	17. 8	41. 6	4. 0	8. 4	1. 0
	70歳代	115	41.7	12. 2	26. 1	40. 0	12. 2	12. 2	40. 0	4. 3	12. 2	5. 2
	80歳以上	55	36. 4	20. 0	7. 3	41.8	10. 9	10. 9	36. 4	1.8	12. 7	3. 6

※網掛け■は最も割合が高いもの

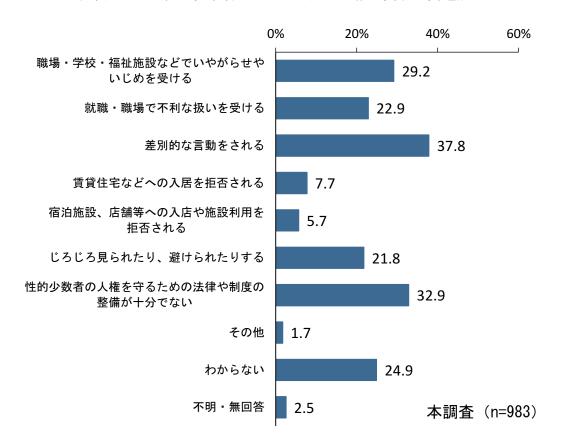
性別でみると、男性では「外国人が日本語を学べる機会をつくる」が 41.3% で最も高く、女性では「日本人と外国人の交流等を進め、お互いの文化や社会事情を理解する機会をつくる」が 43.5% で最も高くなっています。

年齢別でみると、10歳代では「外国人の労働環境を見直す」「日本人と外国人の交流等を進め、 お互いの文化や社会事情を理解する機会をつくる」「外国人が日本語を学べる機会をつくる」が 同率で最も高く、20歳代では「外国人の労働環境を見直す」の割合が最も高く、60歳代・70歳 代では「外国人のための相談所や電話相談など相談機能を充実させる(いくつかの言語で対応で きる等)」の割合が最も高く、それ以外の年齢層では「日本人と外国人の交流等を進め、お互いの 文化や社会事情を理解する機会をつくる」の割合が最も高くなっています。

9. 性的少数者(LGBT)の人権について

性的少数者(LGBT)に関することがらで、人権の尊重という点からみて、 問22 あなたが特に問題があると思われるのはどのようなことですか。 (Oは3つまで)

図表 2-9-1 性的少数者 (LGBT) の人権に関する問題点



性的少数者(LGBT)の人権に関する問題点については、「差別的な言動をされる」が37.8%で最も高く、次いで「性的少数者の人権を守るための法律や制度の整備が十分でない」が32.9%、「職場・学校・福祉施設などでいやがらせやいじめを受ける」が29.2%と続いています。

図表 2-9-2 性的少数者 (LGBT) の人権に関する問題点 性別・年齢別

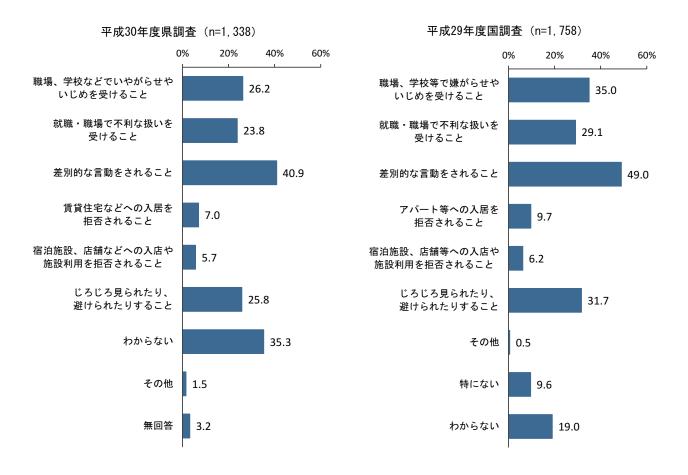
											(単	位:%)
		n (人)	せやいじめを受ける職場・学校・福祉施設などでいやがら	就職・職場で不利な扱いを受ける	差別的な言動をされる	賃貸住宅などへの入居を拒否される	を拒否される宿泊施設、店舗等への入店や施設利用	ころじろ見られたり、避けられたりす	制度の整備が十分でない性的少数者の人権を守るための法律や	その他	わからない	不明・無回答
	全体	983	29. 2	22. 9	37. 8	7. 7	5. 7	21.8	32. 9	1. 7	24. 9	2. 5
	男性	334	29. 9	21.0	40. 1	7. 5	6. 0	23. 7	30. 2	1.8	24. 6	2. 4
性別	女性	637	28. 9	23. 7	36. 7	8. 0	5. 7	21.0	34. 5	1.7	25. 4	1. 9
,,,,	答えたくない	6	33. 3	16. 7	50.0	0.0	0.0	0.0	16. 7	0.0	16. 7	33. 3
	10歳代	48	33. 3	22. 9	60. 4	4. 2	8. 3	35. 4	31. 3	0.0	8. 3	4. 2
	20歳代	92	34. 8	15. 2	52. 2	8. 7	9. 8	33. 7	38. 0	0.0	16. 3	0. 0
	30歳代	118	39. 8	18. 6	48. 3	8. 5	6. 8	21. 2	35. 6	2. 5	19. 5	2. 5
年齢別	40歳代	159	32. 1	24. 5	37. 1	8. 8	7. 5	21. 4	33. 3	1. 3	25. 2	0. 6
別	50歳代	187	26. 7	28. 9	38. 0	7. 5	4. 3	23. 5	34. 8	1.1	20. 9	2. 1
	60歳代	202	29. 2	27. 2	33. 7	8. 4	4. 0	19. 3	36. 1	4. 0	21. 3	2. 0
	70歳代	115	20. 0	19. 1	27. 0	7. 8	4. 3	14. 8	23. 5	1. 7	45. 2	3. 5
	80歳以上	55	14. 5	7. 3	14. 5	1.8	1. 8	10. 9	21.8	0.0	52. 7	7. 3

※網掛け■は最も割合が高いもの

性別でみると、男性・女性いずれも「差別的な言動をされる」の割合が最も高く、次いで「性的少数者の人権を守るための法律や制度の整備が十分でない」、「職場・学校・福祉施設などでいやがらせやいじめを受ける」の順で割合が高くなっています。

年齢別でみると、10歳代から50歳代の年齢層では「差別的な言動をされる」の割合が最も高く、60歳代では「性的少数者の人権を守るための法律や制度の整備が十分でない」の割合が最も高く、70歳以上の年齢層では「わからない」の割合が最も高くなっています。

図表 2-9-3 国・県調査結果「性的指向に関する人権問題」

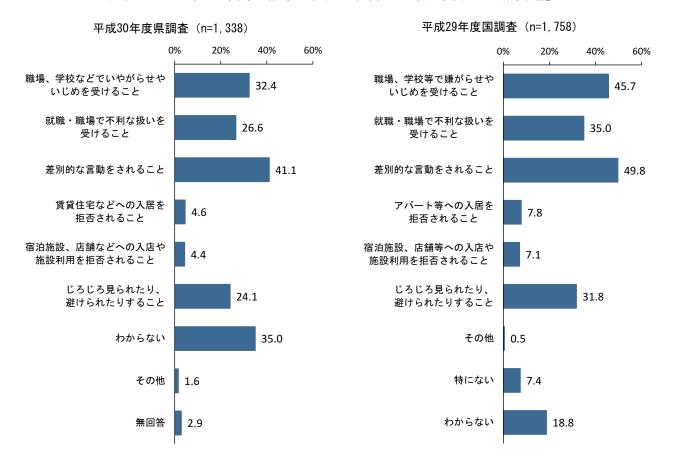


※平成30年度県調査では3つまでの複数回答、平成29年度国調査では複数回答

平成30年度県調査では、「差別的な言動をされること」が40.9%で最も高く、次いで「わからない」が35.3%、「職場、学校などでいやがらせやいじめを受けること」が26.2%と続いています。

平成29年度国調査では、「差別的な言動をされること」が49.0%で最も高く、次いで「職場、学校等で嫌がらせやいじめを受けること」が35.0%、「じろじろ見られたり、避けられたりすること」が31.7%と続いています。

図表 2-9-4 国・県調査結果「性同一性障がい者に関する人権問題」



※平成30年度県調査では3つまでの複数回答、平成29年度国調査では複数回答

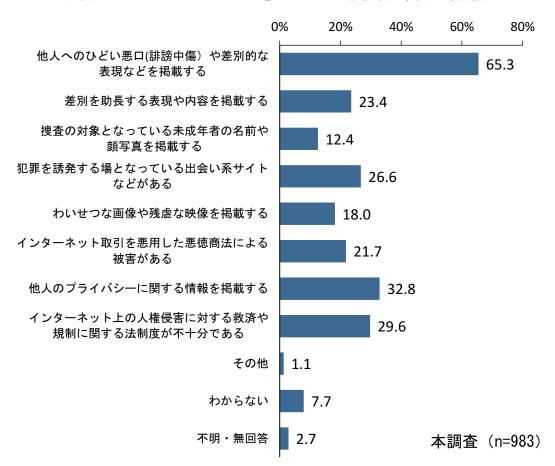
平成30年度県調査では、「差別的な言動をされること」が41.1%で最も高く、次いで「わからない」が35.0%、「職場、学校などでいやがらせやいじめを受けること」が32.4%と続いています。

平成29年度国調査では、「差別的な言動をされること」が49.8%で最も高く、次いで「職場、学校等で嫌がらせやいじめを受けること」が45.7%、「就職・職場で不利な扱いを受けること」が35.0%と続いています。

10. インターネットを悪用した人権侵害について

インターネット(パソコン、スマートフォンなど)を悪用した人権侵害につい 問 23 て、あなたが特に問題があると思われるのはどのようなことですか。 (Oは3つまで)

図表 2-10-1 インターネットを悪用した人権侵害に関する問題点



インターネットを悪用した人権侵害に関する問題点については、「他人へのひどい悪口(誹謗中傷) や差別的な表現などを掲載する」が 65.3%で最も高く、次いで「他人のプライバシーに関する情報を掲載する」が 32.8%、「インターネット上の人権侵害に対する救済や規制に関する法制度が不十分である」が 29.6% と続いています。

図表 2-10-2 インターネットを悪用した人権侵害に関する問題点 性別・年齢別

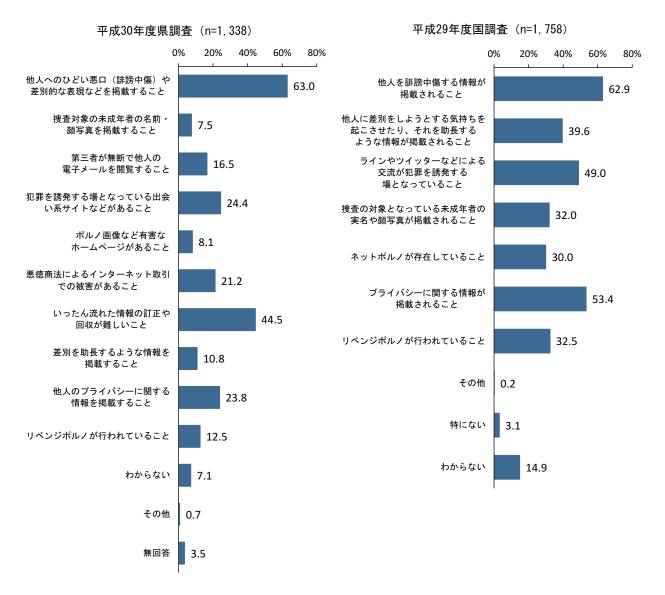
情報を掲載する他人のプライバン 十分である 対する救済や規制に関するインターネット上の人権侵 や差別的な表現他人へのひどい 名搜 前査 掲わ載い 悪イ徳ン 掲載する差別を助長する表現や内容を わか ての他 崩 応商法による被害 フターネット取引 やの するせつな画像や残虐な映 らない 対象とな 系誘サ発 無回 イトなどがあるする場となってい を掲っ 呪などを掲載い悪口(誹謗・ n シー 以害がある. でいる未成し 人 に関 した 制に 全体 12.4 18. 0 21.7 29.6 2.7 男性 334 28.4 9.9 21.0 7. 8 29.9 31.7 32.3 0.9 7. 5 4. 2 女性 637 21. 2 13.8 29. 4 23. 2 17.6 33.4 27.9 1.3 8.0 1.7 答えたくない 0.0 0.0 33. 3 0.0 33.3 0.0 0.0 0.0 48 33. 3 14. 6 12.5 0.0 2. 1 10歳代 18 8 43 8 18 8 16.7 92 20歳代 18.5 7.6 12.0 16.3 25.0 54.3 15.2 2. 2 5.4 1.1 18. 6 118 11.9 22.0 21.2 39.0 2. 5 30歳代 19.5 29.7 0.8 5. 1 40歳代 159 30.8 12. 6 24. 5 23. 3 20.8 35.8 27.0 0.0 4. 4 1.3 187 22. 5 18. 2 25. 1 0. 5 4. 3 2. 7 50歳代 11.8 25. 7 35.3 38.0 0. 5 202 24. 3 15.3 14. 4 25. 2 1.5 5. 9 60歳代 36. 1 26.7 34. 2 70歳代 115 19. 1 9.6 37. 4 22. 6 17. 4 18.3 2. 6 17. 4 4. 3 29 6 80歳以上 55 20.0 16.4 20.0 7. 3 12.7 12.7 9. 1 1.8

※網掛け■は最も割合が高いもの

性別でみると、男性・女性いずれも「他人へのひどい悪口(誹謗中傷) や差別的な表現などを掲載する」の割合が最も高くなっており、男性では次いで「インターネット上の人権侵害に対する 救済や規制に関する法制度が不十分である」の割合が高く、女性では次いで「他人のプライバシーに関する情報を掲載する」の割合が高くなっています。

年齢別でみると、すべての年齢層で「他人へのひどい悪口(誹謗中傷) や差別的な表現などを掲載する」の割合が最も高く、10歳代から 40歳代の年齢層では次いで「他人のプライバシーに関する情報を掲載する」の割合が高く、50歳代では次いで「インターネット上の人権侵害に対する救済や規制に関する法制度が不十分である」の割合が高く、60歳代・70歳代では次いで「犯罪を誘発する場となっている出会い系サイトなどがある」の割合が高く、80歳以上では次いで「わからない」の割合が高くなっています。

図表 2-10-3 インターネットを悪用した人権侵害に関する問題点 他調査結果



- ※リベンジポルノ:元交際相手などの性的な画像などを、相手の同意を得ることなく、インターネットの掲示板などに公表する行為
- ※平成30年度県調査では3つまでの複数回答、平成29年度国調査では複数回答

平成30年度県調査では、「他人へのひどい悪口(誹謗中傷)や差別的な表現などを掲載すること」が63.0%で最も高く、次いで「いったん流れた情報の訂正や回収が難しいこと」が44.5%、「犯罪を誘発する場となっている出会い系サイトなどがあること」が24.4%と続いています。

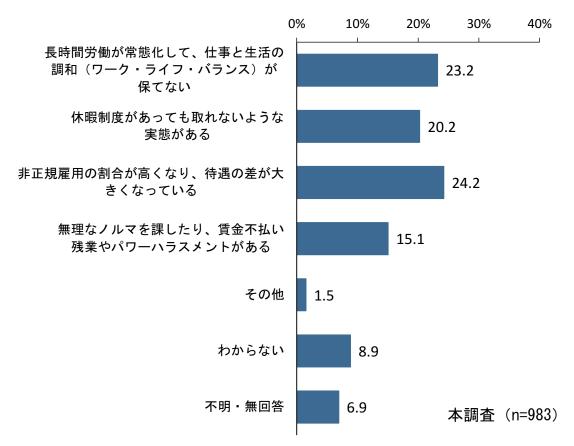
平成29年度国調査では、「他人を誹謗中傷する情報が掲載されること」が62.9%で最も高く、次いで「プライバシーに関する情報が掲載されること」が53.4%、「ラインやツイッターなどによる交流が犯罪を誘発する場となっていること」が49.0%と続いています。

11. 働く人の人権について

問 24

働く人の人権についてあなたが特に問題があると思われるのはどのようなことですか。(○は1つまで)

図表 2-11-1 働く人の人権に関する問題点



働く人の人権に関する問題点については、「非正規雇用の割合が高くなり、待遇の差が大きくなっている」が24.2%で最も高く、次いで「長時間労働が常態化して、仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)が保てない」が23.2%、「休暇制度があっても取れないような実態がある」が20.2%と続いています。

図表 2-11-2 働く人の人権に関する問題点 性別・年齢別

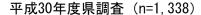
		n (人)	パランス)が保てない生活の調和(ワーク・ライフ・長時間労働が常態化して、仕事と	態がある、保暇制度があっても取れないような実	待遇の差が大きくなっている非正規雇用の割合が高くなり、	残業やパワーハラスメントがある無理なノルマを課したり、賃金不払い	その他	わからない	位: %) 不明·無回答
	全体	983	23. 2	20. 2	24. 2	15. 1	1. 5	8. 9	6. 9
	男性	334	20. 1	22. 2	25. 4	14. 1	2. 4	7. 5	8. 4
性別	女性	637	24. 8	19. 2	23. 7	15. 5	1.1	9. 7	6. 0
,,,,	答えたくない	6	33. 3	16. 7	33. 3	16. 7	0.0	0.0	0.0
	10歳代	48	35. 4	14. 6	14. 6	16. 7	2. 1	8. 3	8. 3
	20歳代	92	31.5	29. 3	10. 9	14. 1	1.1	6. 5	6. 5
	30歳代	118	29. 7	28. 8	11. 9	12. 7	2. 5	5. 9	8. 5
年齢	40歳代	159	28. 9	20. 8	19. 5	17. 0	1. 9	6. 9	5. 0
別	50歳代	187	20. 3	18. 2	29. 9	15. 5	3. 2	7. 5	5. 3
	60歳代	202	13. 9	19. 8	36. 1	16. 8	0. 5	6. 4	6. 4
	70歳代	115	18. 3	13. 9	33. 0	13. 9	0.0	15. 7	5. 2
	80歳以上	55	21.8	10. 9	16. 4	9. 1	0. 0	25. 5	16. 4

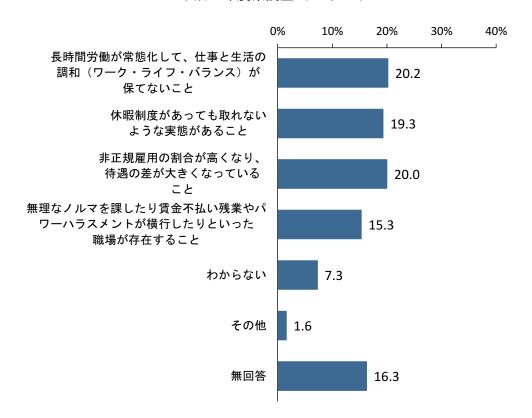
※網掛け■は最も割合が高いもの

性別でみると、男性では「非正規雇用の割合が高くなり、待遇の差が大きくなっている」が25.4%で最も高く、次いで「休暇制度があっても取れないような実態がある」が22.2%と続いており、女性では「長時間労働が常態化して、仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)が保てない」が24.8%で最も高く、次いで「非正規雇用の割合が高くなり、待遇の差が大きくなっている」が23.7%と続いています。

年齢別でみると、10歳代から40歳代の年齢層では「長時間労働が常態化して、仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)が保てない」の割合が最も高く、50歳代から70歳代の年齢層では「非正規雇用の割合が高くなり、待遇の差が大きくなっている」の割合が最も高く、80歳以上では「わからない」の割合が最も高くなっています。

図表 2-11-3 働く人の人権に関する問題点 他調査結果





平成30年度県調査では、「長時間労働が常態化して、仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)が保てないこと」が20.2%で最も高く、次いで「非正規雇用の割合が高くなり、待遇の差が大きくなっていること」が20.0%、「休暇制度があっても取れないような実態があること」が19.3%と続いています。

12. 人権問題に関する啓発活動について

問 25

あなたは、人権啓発を進めるためには、どのような啓発活動が効果的だと思いますか。(〇はいくつでも)

0% 10% 20% 30% 40% 講演会、講義形式の研修会、学習会 30.8 ワークショップ形式(専門家をまじえた 24.3 少人数の討議・活動)の研修会・学習会 映画、ビデオ 25.9 展示会 6.0 広報紙、パンフレット・ポスター 26.1 SNS (ツイッター、フェイスブックなど) 31.8 やホームページなどのインターネット 車いすやアイマスクなどを使った 18.8 疑似体験会 コンサート 8.4 交流会 21.2 その他 5.8 不明·無回答 5.4 本調査 (n=983)

図表 2-12-1 効果的と思われる人権啓発活動

効果的と思われる人権啓発活動については、「SNS (ツイッター、フェイスブックなど) やホームページなどのインターネット」が 31.8%で最も高く、次いで「講演会、講義形式の研修会、学習会」が 30.8%、「広報紙 、パンフレット・ポスター」が 26.1%と続いています。

図表 2-12-2 効果的と思われる人権啓発活動 性別・年齢別

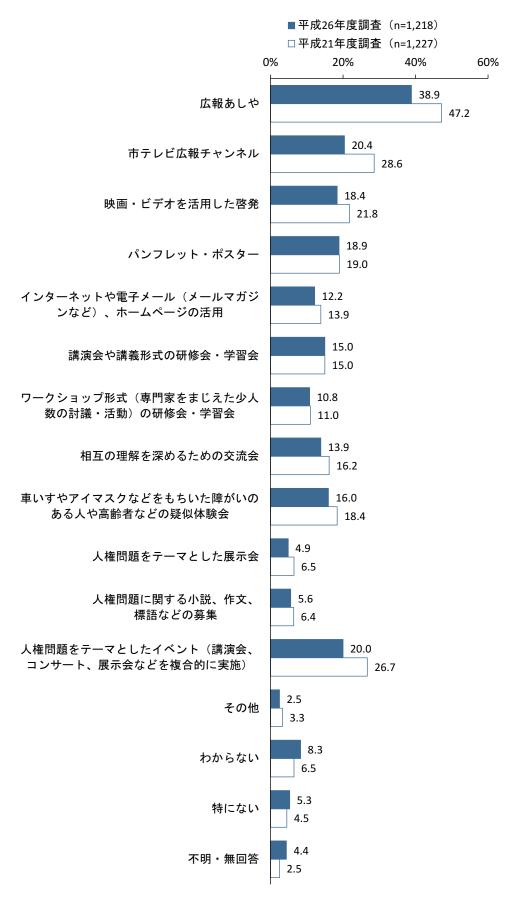
		n 入	講演会、講義形式の研修会、学習会	習会というでは、「おり」の研修会・学の一クショップ形式(専門家をまじえり)	映画、ビデオ	展示会	広報紙 、パンフレット・ポスター	ネット のいい (ツイッター) ひどの (ツイッター) フェイスブック	疑似体験会車いすやアイマスクなどを使った	コンサー ム	交流会	その他	位:%() 不明・無回答
	全体	983	30. 8	24. 3	25. 9	6. 0	26. 1	31.8	18. 8	8. 4	21. 2	5. 8	5. 4
	男性	334	31. 1	27. 2	21. 6	6. 3	22. 5	35. 9	15. 6	8. 4	21. 6	5. 4	5. 4
性別	女性	637	30. 9	22. 9	28. 4	6. 0	28. 3	30. 0	20. 9	8. 5	21. 0	5. 8	5. 0
,,,	答えたくない	6	16. 7	0.0	16. 7	0.0	33. 3	16. 7	0.0	16. 7	16. 7	16. 7	0. 0
	10歳代	48	16. 7	10. 4	31. 3	2. 1	12. 5	45. 8	18. 8	4. 2	16. 7	6. 3	2. 1
	20歳代	92	21. 7	16. 3	27. 2	4. 3	21. 7	52. 2	18. 5	6. 5	13. 0	4. 3	2. 2
	30歳代	118	21. 2	15. 3	22. 9	5. 1	22. 9	50.0	15. 3	9. 3	20. 3	7. 6	2. 5
年齢	40歳代	159	28. 9	25. 2	18. 9	5. 7	22. 6	33. 3	25. 2	8. 2	19. 5	6. 3	3. 1
別	50歳代	187	32. 1	31. 0	31. 0	5. 9	29. 9	34. 8	18. 7	8. 0	21. 9	7. 0	3. 7
	60歳代	202	38. 1	24. 8	24. 8	5. 9	27. 2	21. 3	23. 3	9. 9	27. 7	6. 4	6. 4
	70歳代	115	37. 4	38. 3	27. 0	10. 4	32. 2	13. 9	14. 8	11. 3	20. 9	3. 5	9. 6
	80歳以上	55	40. 0	12. 7	32. 7	7. 3	36. 4	10. 9	3. 6	5. 5	20. 0	0. 0	14. 5

※網掛け■は最も割合が高いもの

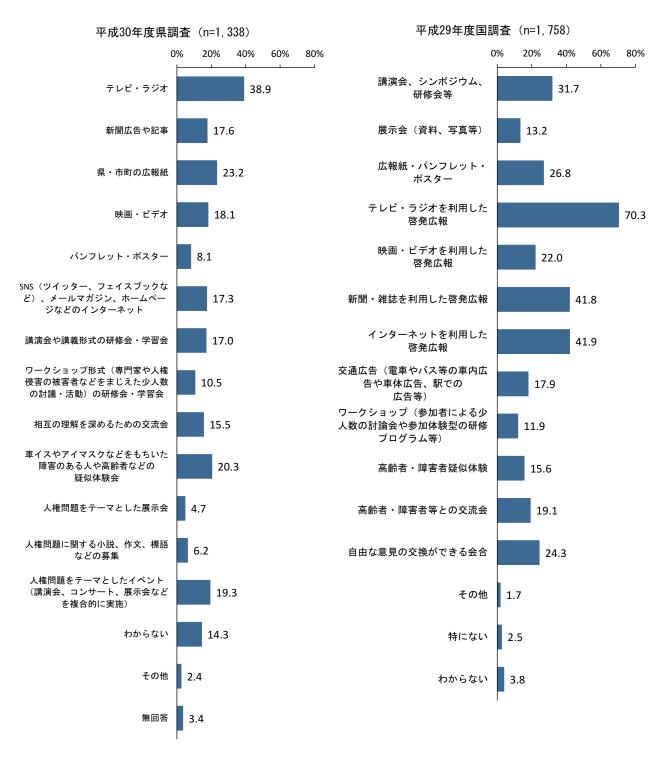
性別でみると、男性では「SNS (ツイッター、フェイスブックなど)やホームページなどのインターネット」の割合が最も高く、次いで「講演会、講義形式の研修会、学習会」の割合が高くなっており、女性では「講演会、講義形式の研修会、学習会」の割合が高く、次いで「SNS (ツイッター、フェイスブックなど)やホームページなどのインターネット」の割合が高くなっています。

年齢別でみると、10歳代から50歳代の年齢層では「SNS (ツイッター、フェイスブックなど)やホームページなどのインターネット」の割合が最も高く、60歳代・80歳以上では「講演会、講義形式の研修会、学習会」の割合が最も高く、70歳代では「ワークショップ形式(専門家をまじえた少人数の討議・活動)の研修会・学習会」の割合が最も高くなっています。

図表 2-12-3 効果的と思われる人権啓発活動 他調査結果



図表 2-12-4 効果的と思われる人権啓発活動 他調査結果

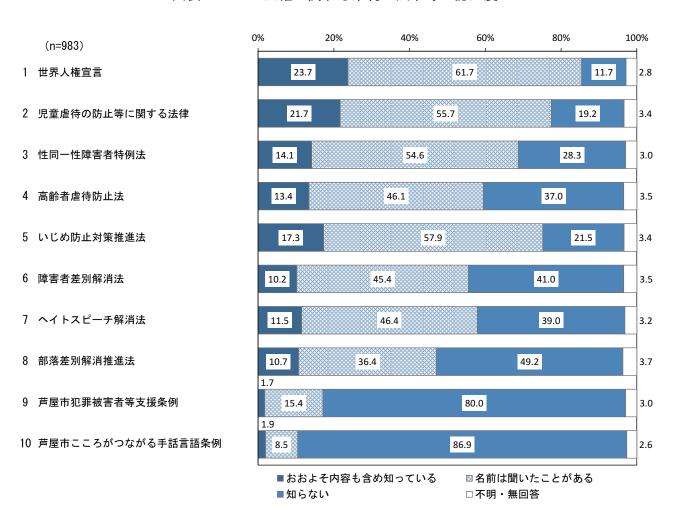


平成30年度県調査では、「テレビ・ラジオ」が38.9%で最も高く、次いで「県・市町の広報紙」が23.2%、「車イスやアイマスクなどをもちいた障害のある人や高齢者などの疑似体験会」が20.3%と続いています。

平成29年度国調査では、「テレビ・ラジオを利用した啓発広報」が70.3%で最も高く、次いで「インターネットを利用した啓発広報」が41.9%、「新聞・雑誌を利用した啓発広報」が41.8%と続いています。

問 26 あなたは、次にあげる条約、法律などについて、名前を見聞きしたり、内容を 知っていますか。

図表 2-12-5 人権に関する条約・法令等の認知度



人権に関する条約・法令等の認知度について、「おおよそ内容も含め知っている」では、「世界人権宣言」が23.7%で最も高く、次いで「児童虐待の防止等に関する法律」が21.7%、「いじめ防止対策推進法」が17.3%と続いています。

図表 2-12-6① 人権に関する条約・法令等の認知度 性別・年齢別

			1 世界人	、権宣言			2 児童虐	≧待の防止		る法律
		n (人)	知っているおおよそ内容も含め	ある。	知らない	不明·無回答	知っているおおよそ内容も含め	ある。	知らない	不明·無回答
	全体	983	23. 7	61.7	11. 7	2. 8	21. 7	55. 7	19. 2	3. 4
1.1	男性	334	25. 1	59.0	12. 6	3. 3	18. 6	54. 2	22. 5	4. 8
性別	女性	637	23. 1	63. 1	11.5	2. 4	23. 1	56.8	17. 7	2. 4
	答えたくない	6	0.0	100.0	0.0	0.0	16. 7	66. 7	16. 7	0. 0
	10歳代	48	41. 7	47. 9	10. 4	0.0	20. 8	56. 3	22. 9	0. 0
	20歳代	92	31. 5	54. 3	12. 0	2. 2	20. 7	54. 3	22. 8	2. 2
	30歳代	118	24. 6	64. 4	10. 2	0.8	22. 0	59. 3	16. 9	1. 7
年齢	40歳代	159	19. 5	66. 7	11. 9	1. 9	18. 2	56. 6	23. 9	1. 3
別	50歳代	187	24. 6	59. 4	15. 0	1.1	24. 1	58. 3	17. 1	0. 5
	60歳代	202	24. 3	65.8	6. 9	3. 0	23. 8	55. 9	16. 3	4. 0
	70歳代	115	16. 5	71. 3	9. 6	2. 6	20. 0	53. 9	21. 7	4. 3
	80歳以上	55	14. 5	41.8	27. 3	16. 4	18. 2	45. 5	16. 4	20. 0

※網掛け■は最も割合が高いもの

(単位:%)

									(早	位:%)
			3 性同一	-性障害者	特例法		4 高齢者	指虐待防止	法	
		n (人)	知っているおおよそ内容も含め	ある名前は聞いたことが	知らない	不明・無回答	知っているおおよそ内容も含め	ある名前は聞いたことが	知らない	不明・無回答
	全体	983	14. 1	54. 6	28. 3	3. 0	13. 4	46. 1	37. 0	3. 5
1.1	男性	334	11. 4	53.9	31. 1	3. 6	10. 2	42. 5	43. 4	3. 9
性別	女性	637	15. 4	55. 3	27. 0	2. 4	14. 9	47. 9	34. 2	3. 0
	答えたくない	6	16. 7	50.0	33. 3	0.0	0.0	83. 3	16. 7	0.0
	10歳代	48	14. 6	52. 1	33. 3	0.0	8. 3	47. 9	43. 8	0.0
	20歳代	92	17. 4	43.5	35. 9	3. 3	13. 0	42. 4	42. 4	2. 2
	30歳代	118	10. 2	48.3	39.8	1.7	11.0	46. 6	40. 7	1. 7
年齢	40歳代	159	14. 5	56.6	27. 7	1.3	10. 1	44. 7	43. 4	1. 9
別	50歳代	187	13. 9	59. 4	26. 2	0. 5	16. 6	48. 7	33. 2	1. 6
	60歳代	202	16. 3	58.9	21.3	3. 5	16. 8	44. 6	35. 6	3. 0
	70歳代	115	13. 0	58.3	26. 1	2. 6	9. 6	54. 8	32. 2	3. 5
	80歳以上	55	9. 1	45. 5	29. 1	16. 4	14. 5	34. 5	29. 1	21.8

※網掛け■は最も割合が高いもの

図表 2-12-6② 人権に関する条約・法令等の認知度 性別・年齢別

			5 いじめ	防止対策	推進法		6 障害者	^黃 差別解消		14. 707
		n (人)	知っているおおよそ内容も含め	ある。	知らない	不明·無回答	知っているおおよそ内容も含め	ある。	知らない	不明·無回答
	全体	983	17. 3	57. 9	21.5	3. 4	10. 2	45. 4	41.0	3. 5
1.1	男性	334	18. 6	53.6	24. 0	3. 9	8. 4	46. 1	41. 3	4. 2
性別	女性	637	16. 6	60. 1	20. 4	2. 8	11.0	44. 9	41. 3	2. 8
	答えたくない	6	16. 7	66. 7	16. 7	0.0	0.0	66. 7	33. 3	0.0
	10歳代	48	31. 3	58. 3	10. 4	0.0	14. 6	47. 9	37. 5	0.0
	20歳代	92	22. 8	47.8	27. 2	2. 2	12. 0	41. 3	43.5	3. 3
	30歳代	118	11. 9	63. 6	22. 9	1.7	7. 6	39. 8	50. 0	2. 5
年齢	40歳代	159	18. 2	58. 5	22. 0	1. 3	6. 9	50. 3	41. 5	1. 3
別	50歳代	187	18. 7	60.4	20. 3	0. 5	12. 3	48. 7	38. 0	1, 1
	60歳代	202	17. 3	58. 9	20. 8	3. 0	12. 4	44. 6	39. 6	3. 5
	70歳代	115	12. 2	60. 9	22. 6	4. 3	6. 1	48. 7	41. 7	3. 5
	80歳以上	55	10. 9	41.8	23. 6	23. 6	9. 1	32. 7	38. 2	20. 0

※網掛け■は最も割合が高いもの

(単位:%)

									一	位:%)
			7 ヘイト	・スピーチ	解消法		8 部落差別解消推進法			
		n (人)	知っているおおよそ内容も含め	ある名前は聞いたことが	知らない	不明·無回答	知っているおおよそ内容も含め	ある名前は聞いたことが	知らない	不明・無回答
全体		983	11. 5	46. 4	39. 0	3. 2	10. 7	36. 4	49. 2	3. 7
性別	男性	334	12. 0	49. 4	35. 0	3. 6	11. 1	38. 3	45. 5	5. 1
	女性	637	11.1	44. 4	41.8	2. 7	10. 7	34. 9	51.8	2. 7
	答えたくない	6	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	66. 7	33. 3	0. 0
	10歳代	48	12. 5	31. 3	56. 3	0.0	10. 4	31.3	58. 3	0. 0
	20歳代	92	16. 3	45. 7	34. 8	3. 3	10. 9	33. 7	53. 3	2. 2
年 齢 別	30歳代	118	7. 6	38. 1	52. 5	1.7	8. 5	27. 1	62. 7	1. 7
	40歳代	159	11. 9	45. 9	40. 3	1. 9	6. 3	39. 0	51.6	3. 1
	50歳代	187	12. 3	49. 7	36. 9	1. 1	12. 3	34. 8	51.3	1. 6
	60歳代	202	12. 9	49.0	35. 6	2. 5	13. 9	37. 6	45. 5	3. 0
	70歳代	115	8. 7	53. 9	33. 9	3. 5	9. 6	47. 0	38. 3	5. 2
	80歳以上	55	5. 5	43. 6	32. 7	18. 2	14. 5	32. 7	34. 5	18. 2

※網掛け■は最も割合が高いもの

図表 2-12-6③ 人権に関する条約・法令等の認知度 性別・年齢別

			9 芦屋市犯罪被害者等支援条例				(単位: %) 10			
		n (人)	知っているおおよそ内容も含め	ある名前は聞いたことが	知らない	不明・無回答	知っているおおよそ内容も含め	ある おいたことが	知らない	不明·無回答
全体		983	1.7	15. 4	80.0	3. 0	1. 9	8. 5	86.9	2. 6
性別	男性	334	1.5	10. 8	84. 1	3. 6	0. 9	6. 9	88. 6	3. 6
	女性	637	1. 9	17. 7	78. 0	2. 4	2. 5	9. 3	86. 3	1. 9
	答えたくない	6	0.0	33. 3	66. 7	0.0	0.0	33. 3	66. 7	0.0
年齢別	10歳代	48	2. 1	12. 5	85. 4	0.0	0.0	6. 3	93.8	0.0
	20歳代	92	2. 2	12. 0	83. 7	2. 2	2. 2	6. 5	89. 1	2. 2
	30歳代	118	2. 5	8. 5	87. 3	1.7	2. 5	5. 1	90. 7	1. 7
	40歳代	159	0.0	15. 7	83. 0	1. 3	1. 3	6. 9	90.6	1. 3
	50歳代	187	1.6	14. 4	83. 4	0. 5	1. 1	10. 2	88. 2	0. 5
	60歳代	202	2. 5	17. 8	76. 2	3. 5	2. 0	11.4	84. 7	2. 0
	70歳代	115	1. 7	21. 7	73. 0	3. 5	1. 7	10. 4	85. 2	2. 6
	80歳以上	55	1.8	18. 2	63. 6	16. 4	7. 3	7. 3	67. 3	18. 2

※網掛け■は最も割合が高いもの

性別でみると、「知らない」では、「高齢者虐待防止法」「芦屋市犯罪被害者等支援条例」が女性より男性の割合が高く、「ヘイトスピーチ解消法」「部落差別解消推進法」が男性より女性の割合が高くなっています。

年齢別でみると、「おおよそ内容も含め知っている」では、「世界人権宣言」が、10歳代が41.7%で最も高く、80歳以上が14.5%で最も低くなっており、差が27.2ポイントで、差が最も大きい項目となっており、次いで差が大きい項目として、「いじめ防止対策推進法」で、10歳代が31.3%で最も高く、80歳以上が10.9%で最も低く、差が20.4ポイントとなっています。

13. 人権問題についての自由意見

最後に、人権問題についてご意見がありましたら、自由にご記入ください。

人権問題について、144人から自由記述による回答があり、下表のとおり分類・集計しました。 なお、1人の回答が複数の内容にわたる場合は、複数回答として、それぞれの内容に分類しています。

図表 2-13-1 人権問題についての自由意見

具体的内容					
人権問題全般					
人権擁護・差別解消への積極的意見	13				
人権協調への反発・人権啓発過剰論	6				
その他の意見	17				
女性の人権について					
子どもの人権について					
高齢者の人権について					
障がいのある人の人権について					
同和問題(部落差別)について					
外国人の人権について					
性的少数者(LGBT)の人権について					
インターネットを悪用した人権侵害について					
働く人の人権について					
人権問題に関する啓発活動について					
人権教育について					
行政への要望					
その他					
合計	157				